

339

963



始





佐渡産業案内



339-963



佐  
渡  
産  
業  
案  
内

著者寄贈本



大正

6.11

寄贈

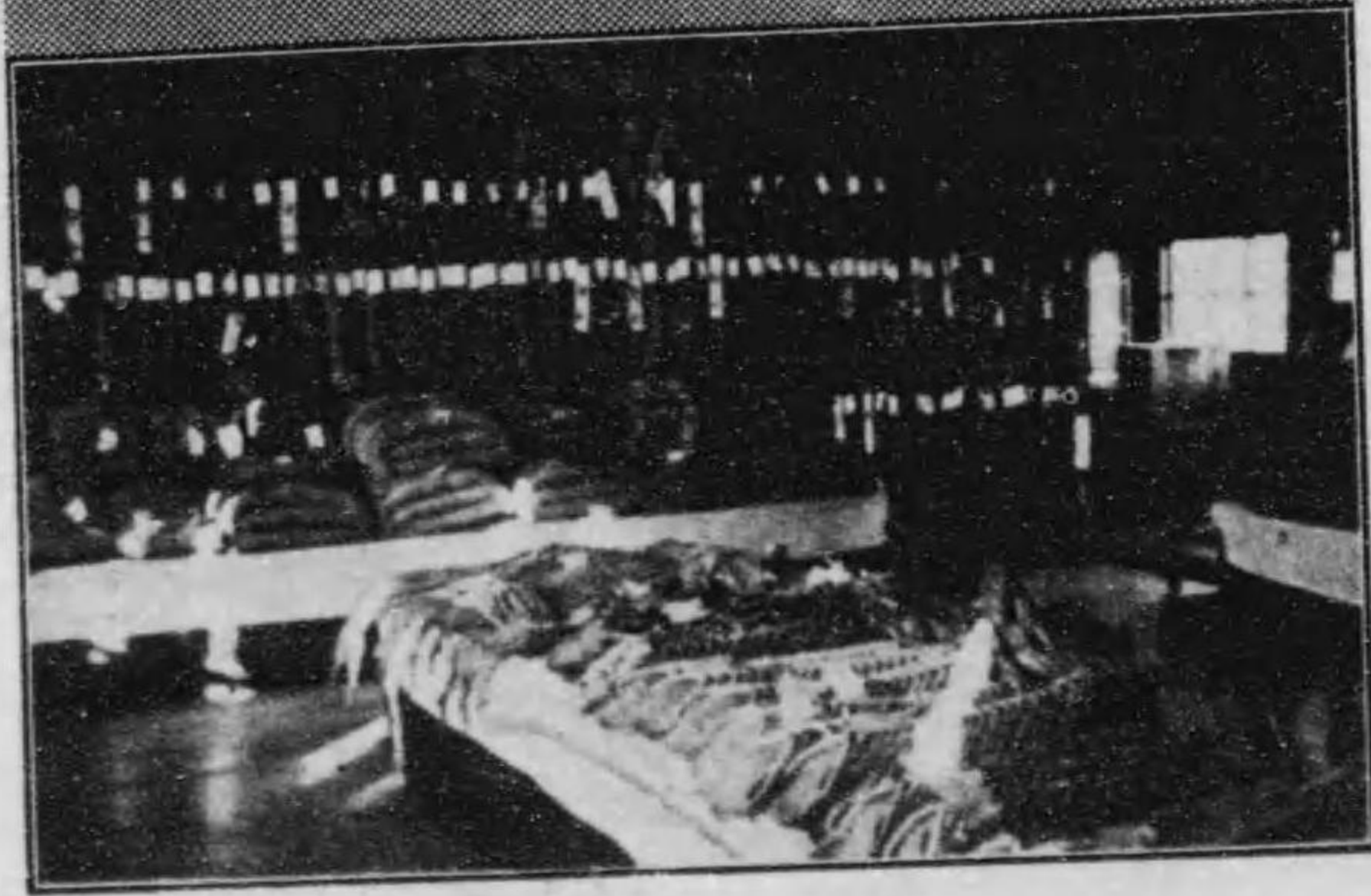




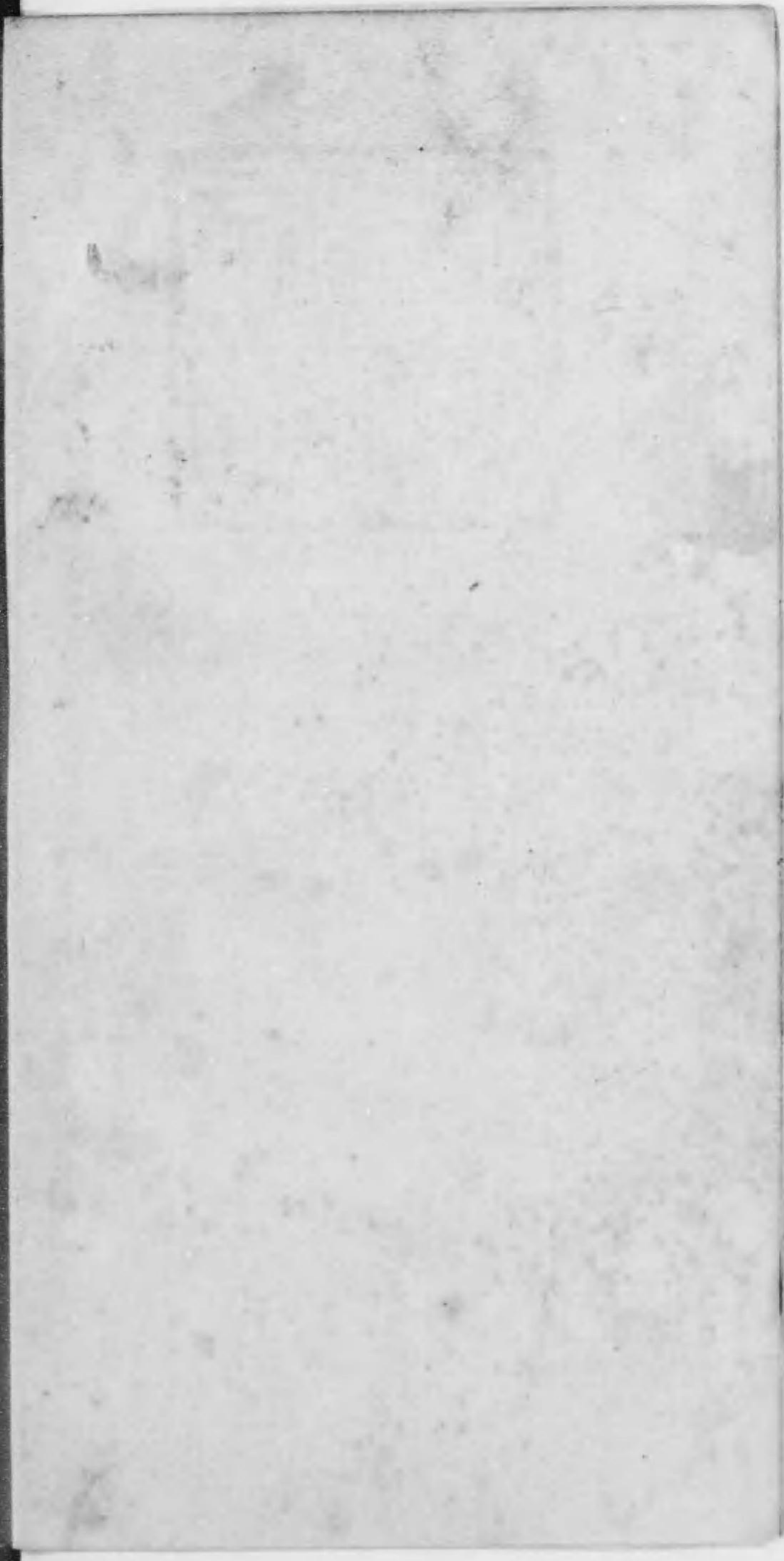
羽黒の古杉と竹林(加茂村)



佐渡農事試験場と農會堂(金澤村)



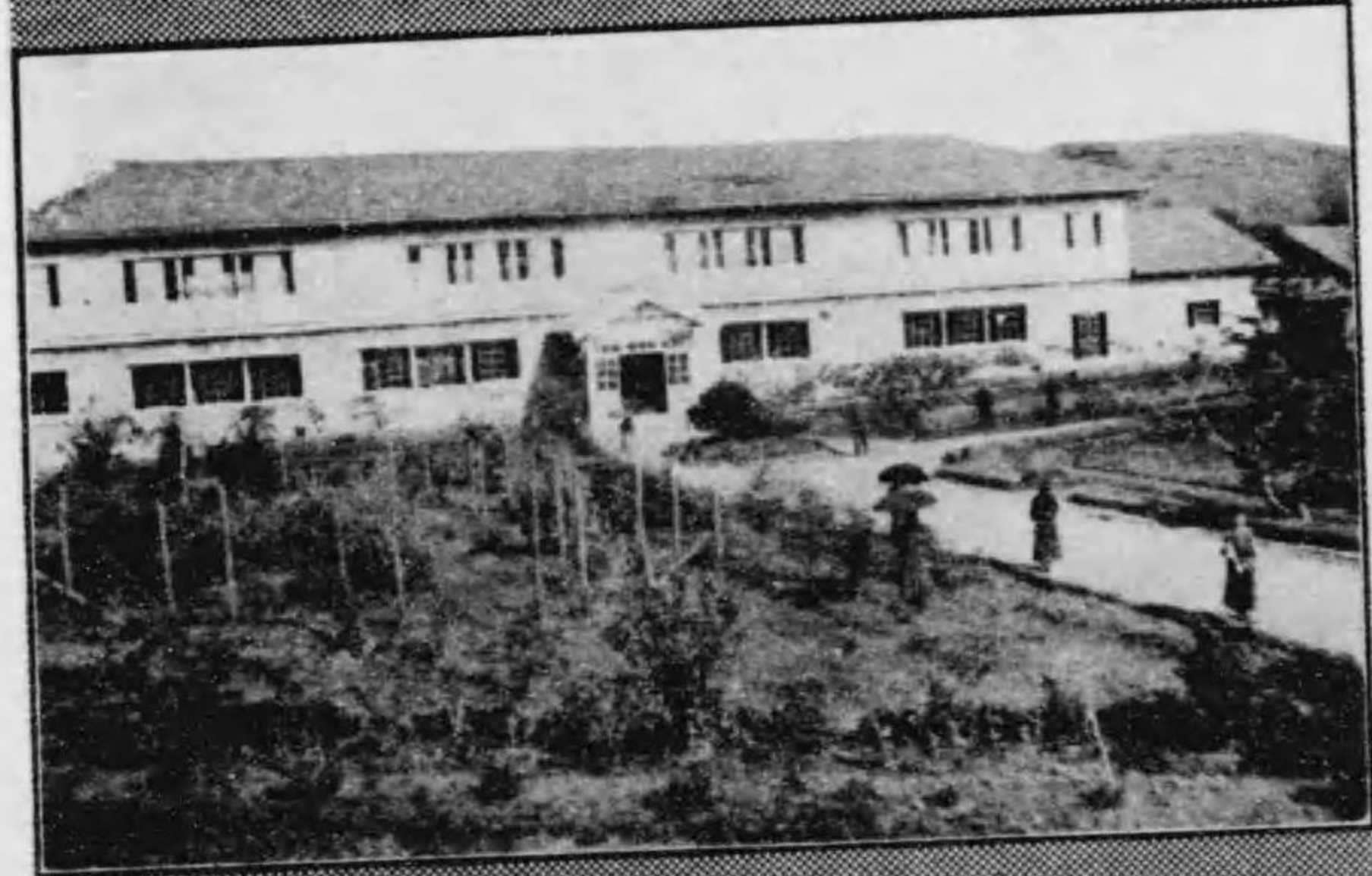
佐渡荒物同業組合陳列室



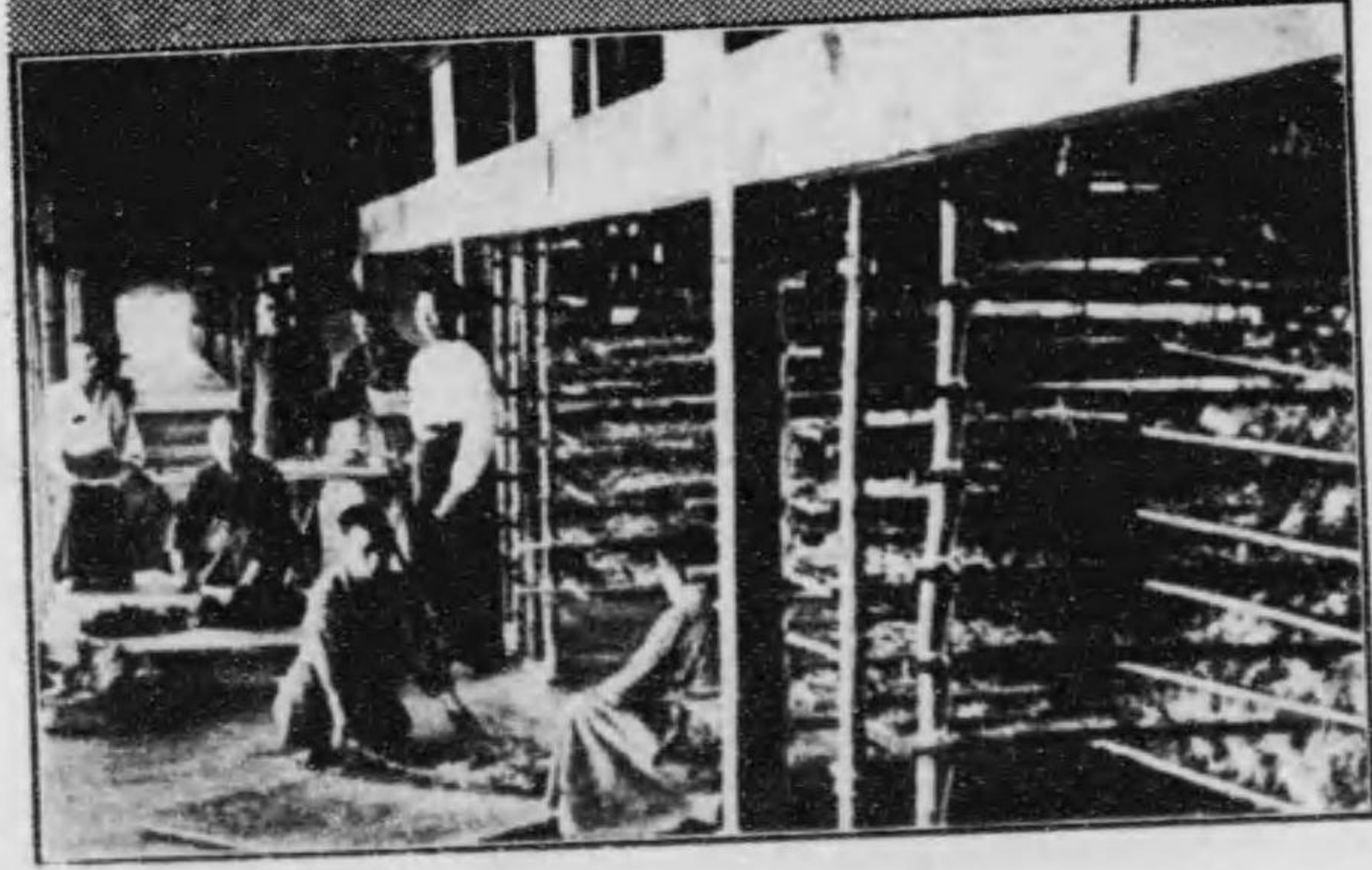




栗野江加茂の赤松林(畑野村)



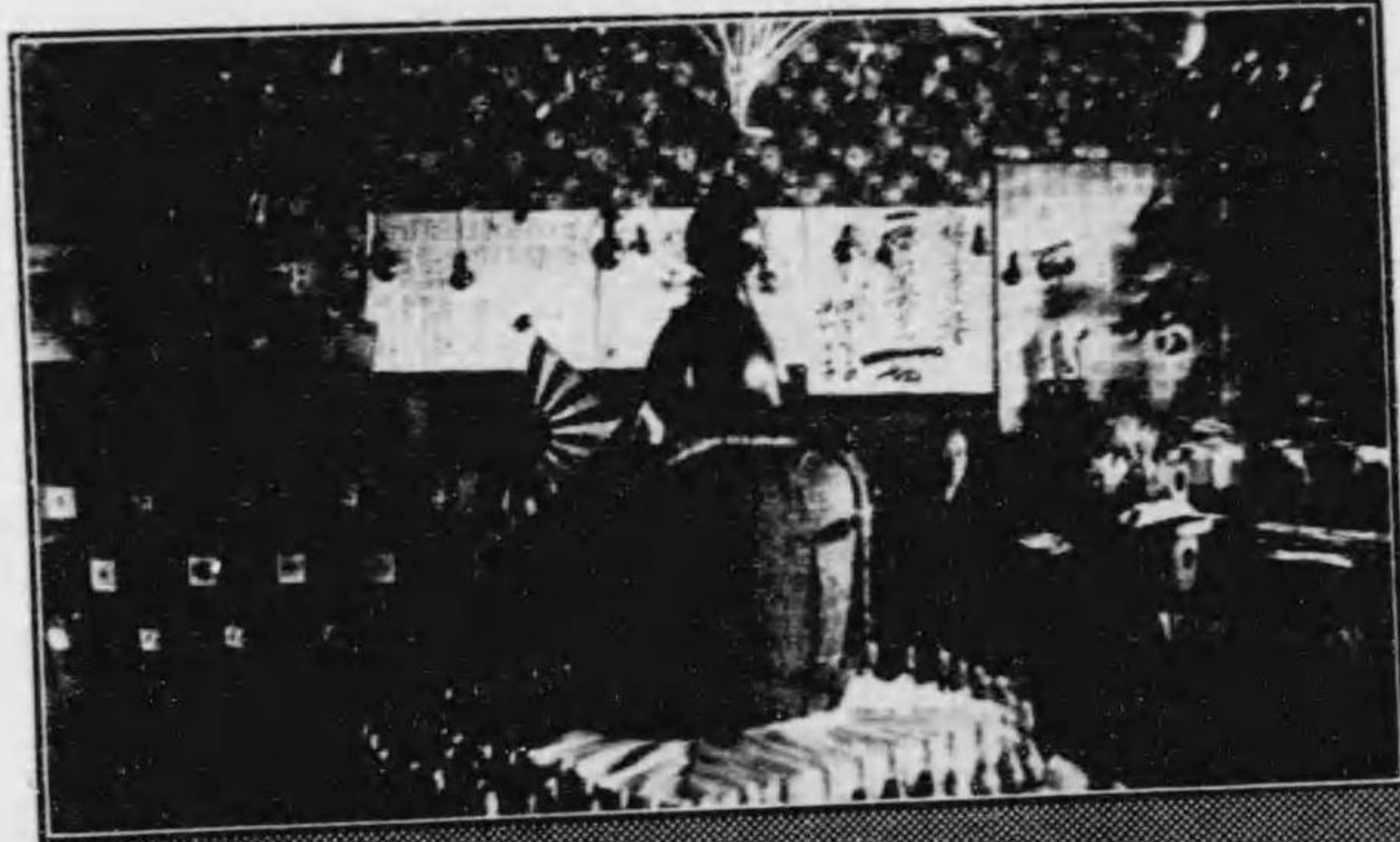
郡立佐渡農學校(畑野村)



佐渡蠶絲同業組合蠶兒飼育場(佐渡農學校)







佐渡酒造組合陳列室



佐渡産牛馬組合經營の青野牧場



四日町の防風林(眞野村)





順徳天皇行在所に於ける  
新潟縣山林會視察團(眞野村)



椿尾石細工採掘元山(西三川村)

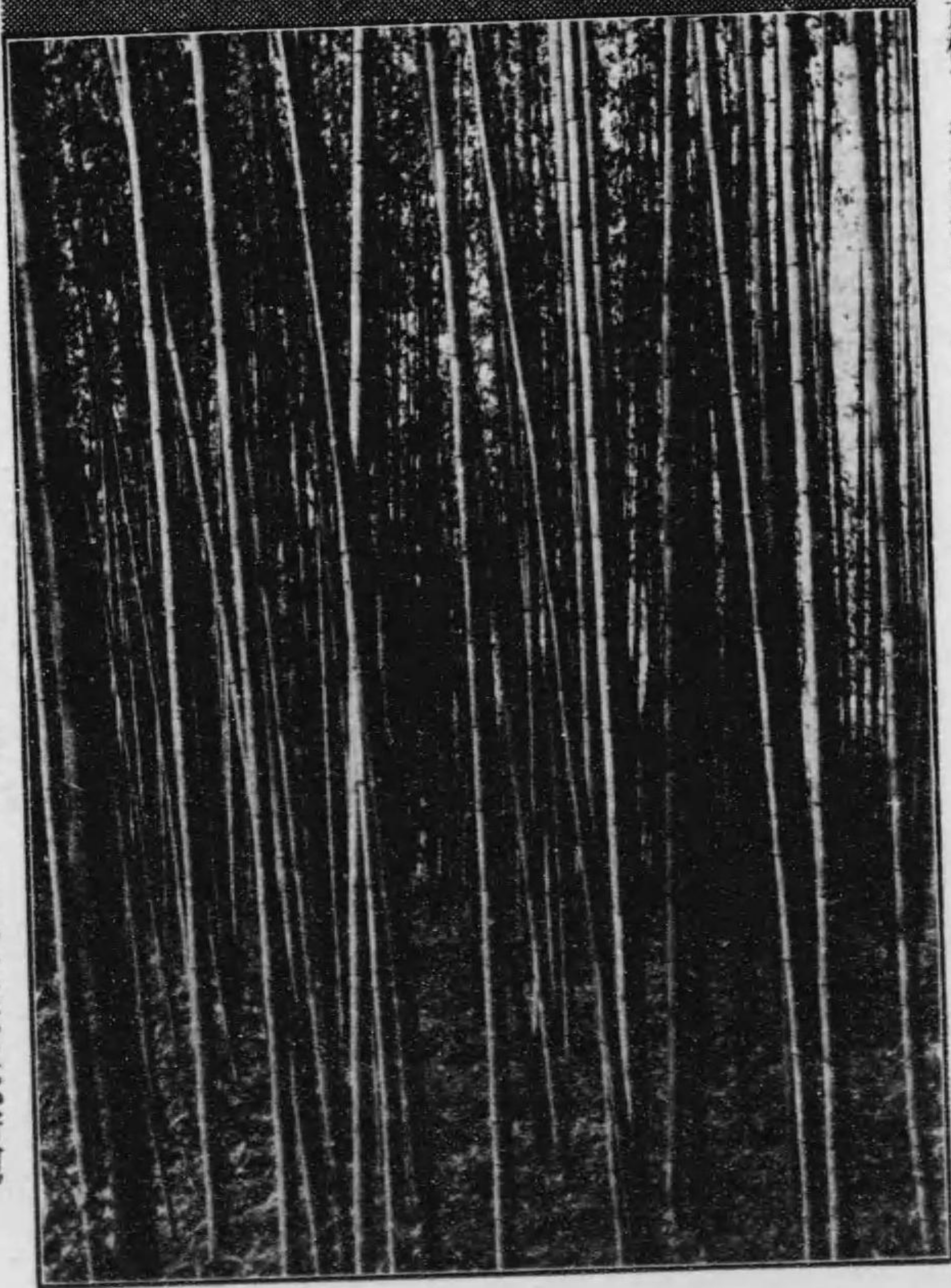


徳和の榧林(赤泊村)





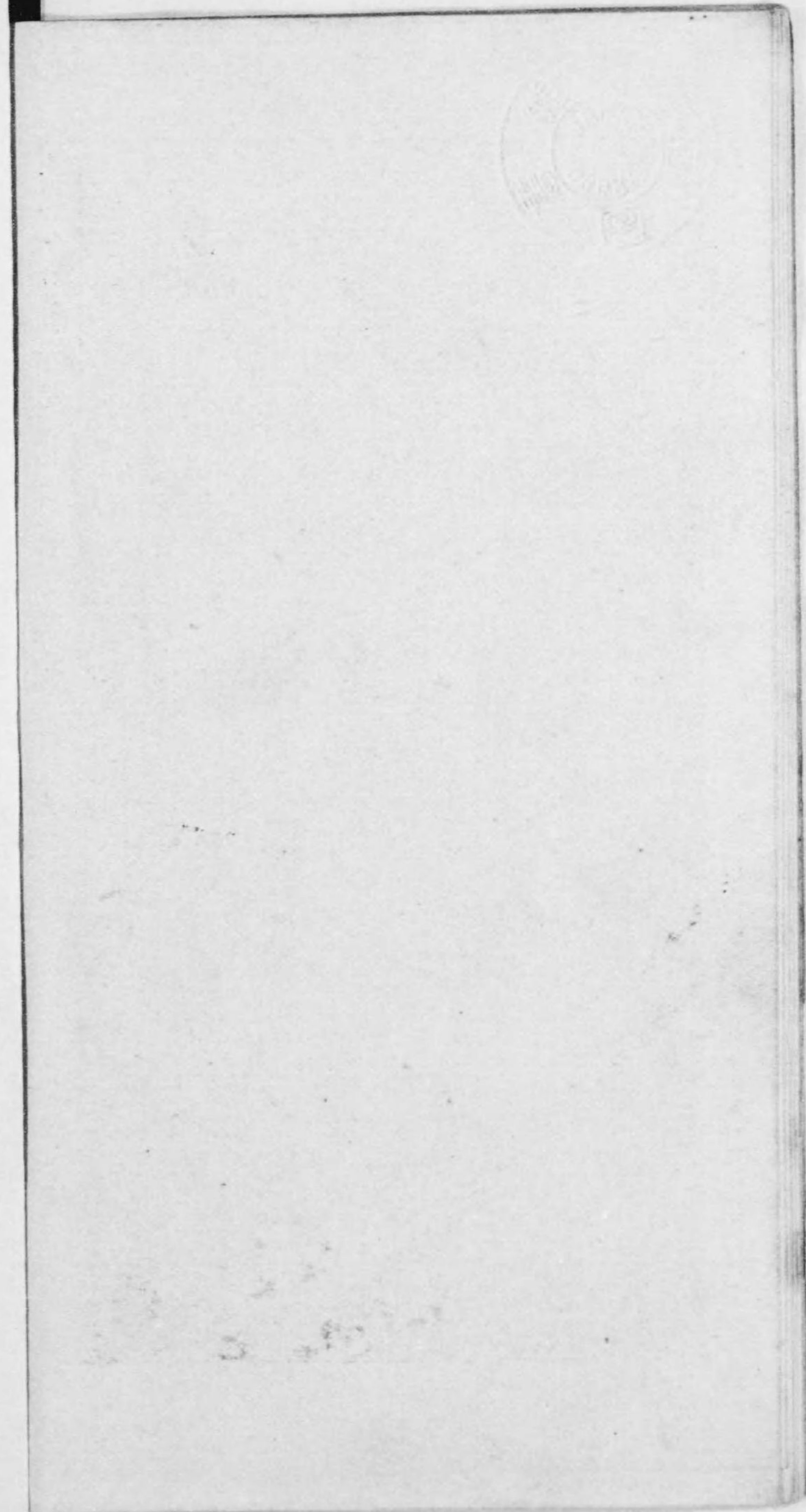
大石沖に於ける藻花採收の光景(羽茂村) 徳和野澤卯市氏の竹林(赤泊村)



(以上撮影全部羽茂村大崎旭昇堂寫眞部寄贈)



欠





# 欠

## 佐渡産業案内目次

總説	.....	一
地勢、地質、氣候、戶口、生業、 <span style="border: 1px solid black;">交通</span> 、通信	.....	一
産業概観	.....	一一
農業	.....	一一
米、麥、蔬菜、果樹、耕地整理、堆肥製造、牛馬耕獎勵、增收競作、農業上の新財源	.....	一一
蠶絲業	.....	二五
養蠶、製絲、養蠶の適地、桑苗養成、稚蠶飼育、其他の獎勵施設	.....	二五
畜産業	.....	三〇
牛、馬、特殊なる放牧法、種牛飼育、牧場、種牛繋留、飼料共同購入、去勢獎勵、除角	.....	三〇
目次	.....	一



佐渡産業案内

獎勵、家畜市場、牧場視察、講習及講話、畜産共進會、販路、養鶏

✓ 鑛業 . . . . . 三九

佐渡鑛山、高千鑛山、鹿ノ浦鑛山、笹川砂金山、西三川鑛山

✓ 林業 . . . . . 四四

郡有林、林野開墾、種子の選擇、樹苗養成、木炭改良、椎茸栽培、林産物、模範施設學  
校林、神宮獻木、保安林、治水事業、竹林の經營、竹の種類、竹材の利用

X 附維新前佐渡の林政 . . . . . 六五

✓ 水産業 . . . . . 七一

柔魚漁業、鰯、定置漁業、遠洋漁業、雜漁業、水産繁殖、水産製造業、鮮魚の輸送、鮮魚販賣

✓ 工業 . . . . . 九二

荒物、味噌、清酒、醬油、指物、織物、銅器、陶磁器、瓦及煉瓦、漆器、玉石細工

✓ 商業 . . . . . 一二二

港灣、市場

✓ 電氣事業 . . . . . 一一九

梅津川發電所、新保川發電所、戸地川發電所、小木發電所

實業團體 . . . . . 一二三

郡町村農會、佐渡郡農友會、佐渡郡蠶絲同業組合、蠶絲會、佐渡郡產牛馬組合、佐渡水産組合、漁業組合、佐渡荒物同業組合、佐渡味噌同業組合、佐渡郡酒造組合、佐渡商業組合、産業組合、青年團體

實業教育 . . . . . 一三四

郡立佐渡農學校

實業機關 . . . . . 一三五

目次



佐渡産業案内

農會堂、郡農事試驗場、輸出米検査、米券倉庫、郡有模範林、生産調査會、佐渡測候所  
金融機關

四

佐渡産業案内目次終

佐渡産業案内附録目次

名物と特産

佐渡牛、佐渡竹、赤玉石、水石、其他の名石化石、無名異焼、玉石細工、竹細工、藁細工、導火線、彌助の石地藏、級織と裂織、五十里の銅器、釜屋笠、徳和の碁盤、小木の椿實、佐渡味噌、赤泊の樗の實、干栗、眞光寺だらり柿、花鮑と櫻鮑と搔鯛、雲丹に海鼠腸、蒲鉾、鯉の佃煮、鱈の沖汁、鮎の石焼、枳餅、澤根團子

一四三

附録目次

五



佐渡産業案内附録目次終

佐渡産業案内

總說

地勢 佐渡は北陸道の西北に當り日本海中に屹立せる一孤島にして斜に南北に伸長し東西に海水灣入し恰も法馬形を成す北緯三十七度五十分に起り同三十八度二十分に亘り東經百三十八度に起り百三十九度の間に在り東北は遙に兩羽の山岳を望み東より南に至るの間近く越後に相對し其の直線最端距離十六哩とす西南は遠く越中能登に向ひ西より北は大海に面し而かも朝鮮及び露領と相望めり其廣袤東西凡十三里(東強清水の東端より小川の西岸に至る)南北凡二十六里(澤崎の南端より鷺崎の北端に至る)周圍凡五十三里面積凡五十六方里を疆域と爲す。

總說



國の中央所謂國中平の前後に二條の山脈起伏し前なるを小佐渡と云ひ後なるを大佐渡と云ふ全島第一の高山金北山（海拔三千八百五十八尺）は大佐渡の中央に聳え其の脈東西に蜿蜒し東は横枕、多々良、金剛、歌見、大平の諸嶺となり西は二ノ嶽、妙見、扇戯、白子刀根に連れり小佐渡の高山を東教山（海拔二千百三十二尺）とす其の東北に駒ヶ嶽、國見山、米山あり、西南は山脈二條に分れ一は雄神、雌神、天狗塚の諸山となり一は飯豊、經塚の二山を屹起す。

國府川は源を新穂の山中に發し國中平野の諸水を合せ四日町に至りて眞野灣に入り羽茂川は外山の山中に發源し大橋に至り海に注ぐ此二川最も長流なり、其の他著名の河川に久知川、梅津川、白瀬川、石花川、戸地川、石田川、西三川等あれども流域皆短し又湖沼の名あるものは加茂湖にして周圍凡五里周邊に勝地多く秀麗を以て喧傳せらる。

地質 此國には古生層近世層ありて中世層なく片麻岩系の如きは見ることを得ず其

の地質は秩父下層に當るも方散蟲板岩綠泥板岩の無きは著るしき特色なり盛んに發見するを得るは粘板岩次で晶質を呈せる石灰岩及び閃綠岩花崗岩輝綠岩其の他頗る多く狭炭層ありて惡質の石灰を出しつゝあるも多少の特色あり（赤泊）近世層に入りては第三層第四層に區分するも第三層は亦二分して古きは相川系新しきは澤根系とするを得べし。

耕地の大半は砂質壤土にして壤土之れに次ぎ粘土亦之れに亞ぐ。

氣候 寒暑共に甚しからず盛夏<sup>本</sup>華氏九十三度に昇り隆冬は二十八度に降ること稀なり然れども日本海沿岸の常態として雨雪亦少からずと雖も積雪二尺を越ゆること鮮し左に大正三年に於ける概況を擧ぐ。

毎月平均氣溫(攝氏)

一 月	四、七 <sup>度</sup>	七 月	二二、二 <sup>度</sup>
二 月	三、三	八 月	二五、七
總 說		三	



佐渡産業案内

三 月	七、三	九 月	二二、四
四 月	八、七	十 月	一五、九
五 月	一六、〇	十一 月	一二、九
六 月	一八、九	十二 月	五、八

前表によれば夏季五月より十一月に至る七ヶ月間は気温最も高く十二月に至り俄然  
低温となり翌春四月までは寒冷なるを常とす。

又降水の状態を見るに左の如し。

月次	降水量	同上日数	月次	降水量	同上日数
一 月	一一三、二	二七 <sup>日</sup>	七 月	二九〇、二	一六 <sup>日</sup>
二 月	五三、二	一九	八 月	一五九、九	一一
三 月	一〇一、五	二一	九 月	六六、九	一一
四 月	九〇、二	一七	十 月	一五四、三	二二
五 月	一四〇、三	二二	十一 月	一七五、三	二二
六 月	一一八、五	一三	十二 月	二二六、九	三〇

前表に依れば降水量に於ては二月九月最も少く七月及び十二月最も多く降水日数に

至りては一月十二月最も多く八月五月九月を最も少しとす。

×  
戸口 大正三年十二月末日の調査に依れば現在戸数二萬一千百九十四戸現住人口十  
萬七千八百七十二人を有す平均一戸五人一分弱平均面積一方里一千九百二十六人強  
なりとす今既往に於ける増減の消長を見るに本籍人口は逐年順調に増加するの狀態  
なるも現住人口の増加多からざるは主として入寄留者少きに反し出寄留者及移住者  
の多きに因るものなり。

×  
生業 住民の生業狀態は農專業者最も多く農漁兼業商專業漁專業順次之れに次ぐ之  
を表示すれば左の如し。

職業別	戸 數	人 口
農 專 業	八、八一〇 <sup>戸</sup>	四五、八三八 <sup>人</sup>
商 專 業	一、六五五	八、九〇四
工 專 業	六〇五	二、七八〇
漁 專 業	一、四三三	七、四五五
總 說		五



佐渡産業案内

農商兼業	一、一四	五、三四八
農工兼業	六六八	二、八八三
農漁兼業	三、二四〇	一九、二四九
商工兼業	一三五	五九五
商漁兼業	一七四	六八五
工漁兼業	一二九	六〇五
農商工兼業	七二	三〇九
農商漁兼業	一三七	六七一
農工漁兼業	六三	二八八
商工漁兼業	四〇	一九七
農商工漁兼業	三三	一五二
雜業	二、八八六	一一、九一三
計	二一、一九四	一〇七、八七二

交通 此國未だ鐵道の敷設なく（輕便鐵道敷設認可稟請中）又國道なるものなし現時縣道五線にして其の延長二十五里三十一丁四十三間、縣營里道三線其の延長四里

二十五丁、郡道三線其の延長二里七丁四十四間外に多田線、羽茂線、海府線（以上縣營里道）阿佛線、前濱線、海府線、中興線（以上郡道）は開鑿中に係れり。

縣	道	里縣
相川線	赤泊線	營道
自兩津町夷至相川町	自眞野村新町至赤泊村赤泊	皆川線
六里十二町	自眞野村新町至兩津町夷	度津線
七里十二町	自小木町小木至羽茂村飯岡	二見線
五里二十二町五十三間	自新穗村新穗至金澤村中興	
四里三十町五十間	自羽茂村飯岡至赤泊村下川茂	
一里二十七町	自澤根町澤根至二見村二見	
一里十町二十間		
二里十五町十五間		
一里三十七間		



御陵線 自眞野村眞野  
至眞野御陵  
横宿線 自新穂村新穂  
至吉井村下横山  
二宮線 至二宮村石田  
至同村二宮

十一町三十間  
一里十八町  
十四町十四間

此他里道延長二百六十七里十五町あり今や序を逐ふて改修に着手せんとす陸上の交通完成を告ぐるも蓋し遠きに非るべし。  
海路に至つては澤根及小木より直江津、赤泊より寺泊へ（冬期）夷より新潟へ汽船の定期航海あり又北海道とは古來商業上密接の關係あり故を以て汽船の往復頻繁なり左に主なる航程を示す。

主要諸港間航路里程

夷港より  
新潟 三四哩  
直江津 七〇  
伏木 一二五  
酒田 六五

岩舟

夷港より  
壽都 三三一哩  
小樽 三一八  
増毛 四六三  
室蘭 五一二  
三一九

土崎 一二〇  
福山 二〇〇  
函館 二四〇  
釜山 五一五  
元山 五四一  
仁川 八八六  
上海 九九五  
天津 一、三三〇

釧路 四四〇  
根室 五三〇  
浦鹽斯德 四三五  
赤泊より寺泊 二二  
澤根より小木 一八  
小木より直江津 三八

**通信** 通信機關の具備は内地と雖も多く見る能はざる迄に普及せり現時郵便局二十八ヶ所中電信電話を取扱ふもの十七箇所、市内特設電話を架設するもの十局電信のみを取扱ふもの五ヶ所郵便物のみを取扱ふもの六ヶ所あり佐渡新潟間の電話は赤泊寺泊（越後）間の海底電信線三回線中一回線を電信單獨線となし二回線を双信線として電信電話に使用しつゝあるも電話の成績良否未だ一定せず之れが改善方法を講究中なり左に其の局名を示す。



種別	相川	河原田	小河	赤泊	新穂	△河崎	相川	河原田	小夷	水津	後尾	郵便物の取扱い	△下戸町
郵便局	二見	新見	夷田	多田	鷺崎	△吉井	二見	新見	新穂	△湊津	△姫津	△宿根木	△和木
名	澤根	中興	羽茂本郷	畑野	浦川	畑野	澤根	中興	畑野	小田	△大工町	△真更川	

表中△印は無集配局を示す

### 産業概観

此國各種の産業中其の首位を占むるものは農産物なり而して其重なるものは米にして麥之れに亞ぐ主として國中地方の産出に係る其の他大豆、小豆、豌豆、蕎麥等の雜穀とす農家の副業としては古來蕪細工を營み主として北海道へ供給す。工業製造品としては味噌、酒、竹製品、銅器、陶磁器、瓦及煉瓦等あり。鑛産物は金銀銅にして主として相川なる佐渡鑛山より出づ。水産物は此國重要な産物にして鰺を第一とし他の漁獲物亦多額を算す。昨年中に於ける此國輸出品産額は約二百九十八萬三千圓にして其の主なるものを別記すれば左の如し。

種別	數量	價額
米	二二、〇二二石	四四八、八八三圓
味噌	七三七、三〇〇石	二二二、一九九圓

産業概観



佐渡産業案内

葉工	一四五、五九六	二三八、六四四
竹工	一五、九六四	六三、三七〇
錫	七、五七八	一二二、二四八
干鱈	一四、四二一	三六、〇四六
金銀地金	一二三五、三五五	九〇、〇七〇
木炭	一二九八、三一〇	九〇、八八一
鮮魚		三七二、六一四
木材		一二六、五八四
畜牛	七二二頭	一七、八〇〇
畜馬	五〇〇頭	二〇、〇〇〇
魚肥		一八、二一九

農業

此國は四面海を環らすを以て魚鹽の利を説く者多しと雖も國內の地味膏腴氣候和順にして天の惠福自ら農業に適するを以て耕耘の業亦頗る旺盛なり。

佐渡こそは廻りの海の幸の外に金も米もみてる國なれ 藏 田 重 時

田畑一萬二千町歩米穀の産するもの約十六萬石の多きに及び國內農を以て業とするもの一萬五千八百四十七戸全戸數の四分の三強を占め從業者五萬七百二十二人全人員の五分の二強に當るを以て見るも其の一斑を窺ふに足れり。  
今試に農作物、繭、果實等一般農産に屬する大正三年の産額を見るに實に三百三十七萬圓に上り之を物産總額六百萬圓に比して百分の五十七強に當り亦以て如何に此國が農産の重要なるかを知るに足らん今左に大正三年に於ける田畑の作付反別を示さん。

田地 八千四百五十一町三反歩  
畑地 三千八百七十七町五反歩

斯くの如く米を以て主要産物となすが故に之れが豊凶は直に郡經濟の消長に關すること最も深きを以て郡當局者は從來農事に重きを置き就中米作の促進と米質改善の



施設とに年來多大の力を致し進んで土地改良の實績を擧げんことを期しつゝあり。  
 米 此國の土地面積約七萬町歩内田畑約一萬二千町歩米の産額十六萬石内外にして  
 一反歩の收穫(粳米)一石八斗五升を示す新潟縣の平均反位産米率一石六斗五升  
 を超ゆること實に二斗なり是湛水地其の他不毛作物の尠少なるに因れり稻種は古來  
 佐渡特有の越前種みなり現今にても十中の八餘は此種子を用ひ殆んど稻種統一の實を  
 擧げ居れば本縣の獎勵しつゝある稻種の統一も此國にては其の要を視ず昨年に於け  
 る米の作付反別及び收穫は左の如し。

種 類	作付反別	收穫高	反當り收穫高
粳 米	七、一八一、五	一三三、二二八	一八五強
糯 米	一、二六九、八	二二、一二九	一七三強
計	八、四五一、三	一五五、三七五	—

而して國內に於て自家用に消費したる米の數量は十一萬六千九百三十八石にして之  
 れを町村別に示せば左の如し。

町村名	消費量	町村名	消費量
相 川	一、五三一	二 見	四、一〇七
澤 根	三、八五五	八 幡	二、〇九六
二 宮	四、四五三	金 澤	六、七八三
河 原 田	二、三四一	新 穂	七、四九二
吉 井	四、六八三	眞 野	七、〇三一
畑 野	七、四五〇	小 木	六、六一一
西 三 川	三、一一一	赤 泊	五、七四九
羽 茂	四、九四二	加 茂	五、六七六
松ヶ崎	一、九九〇	内 海 府	一、一八五
岩 首	一、七一	外 海 府	一、八三四
水 津	一、四八四	高 千	四、五七一
河 崎	五、四九七	金 泉	四、二六四
兩 津	六、四九一		

昨年中に於ける小作人は六千五百四十七人地主は三千百六十八人にして其の小作米  
 は各町村を通じて總數五萬五千百八十五石にして内玄米にて内入したるは五萬五千  
 一五



百七十石白米にて内入したるものは十五石なり。

麥 大正三年に於ける麥の作付反別は約二千七百十二町歩にして其の收穫は二萬八千六百二十五石なり而して其の産額の最も多きは小木町にして二見村羽茂村之れに亞ぐ左に其の種別と收穫を示す。

作付反別	大麥	裸麥	小麥	計
二四九、九 一〇四、九	二、五九九	—	七三四	二八、六二五

蔬菜 園藝作物中蔬菜は八幡村地方を主産地とす此の地眞野灣に面し河原田町と新町との中間にある村落にして土質は砂土乃至砂質壤土なりとす其の栽培地は海岸に瀕し所謂白砂青松の間に在るを以て之れを遠見する時は殆んど其の存在を認められず抑此地方は明治十五年前までは僅に自家用として多少の栽培を試みたるに過ぎざりしが其の後葉藍の衰頹すると同時に漸次蔬菜の有利なるを見るに至り延て今日の盛況を呈せり現今農家二百戸中蔬菜を栽培せざるものなきに至れり蔬菜の種子は共

同購入に依りて多く長岡市より供給を受け夏作は八十八夜を播下期とす整地を行ふには地下二三尺の深さに海草を敷き又圃場の隅には溜池を設け灌漑に便にし別に苗圃を設けずして直播を行ひ或は南瓜の如きは棚作をなし促成栽培をなすものなし其の種類は大根、南瓜、葱、午莠、胡蘿蔔、甘藍等にして兩津、相川其の他國內各地に販出せり此國の園藝は米作の進歩に伴はず尙改良の餘地多きを以て郡當局は去る明治四十五年五月中園藝十年計畫を發表し爾來着々之れが實行に努めつゝあり。

果樹 果樹の主なるものを梅、桃、栗、苹果、梨、柿、枇杷、葡萄等とす此國は柿の生産地にして且古き歴史を有す今より三百十七年前即後陽成天皇の慶長年間羽茂村大字上山田に藤内左衛門と云へる者永く江戸に居住し歸國に際し柿苗を携へ來りしに濫觴すと云ひ傳へ又四百餘年前奈良地方より輸入栽培したるが嚆矢なりとも唱へ今尙各地に根の周圍五尺高さ二丈餘に達する古木あり五六十年前より漸次其の栽培の區域を増し今日に於ては國內到る處栽培を見ざることなき盛況を呈するに至れ



り而して柿の産地に於て最も古きは羽茂、赤泊にして二宮、吉井之れに亞ぐ最近の調査に依れば生柿六萬二千八百八十六本、百萬四百四十四石、干柿一千三百六十本、<sup>六</sup>干柿千四百七十七石なり之れを縣下各郡に比すれば樹數に於て第三位(其の一西蒲原郡)に居り産額に於て第四位(其の一西蒲原郡其の二中蒲原郡其の三刈羽郡)たり現在の柿は果樹園として栽培せるものなく宅地内或は畑地等に栽培するに過ぎずして其の栽培法は尙ほ幼稚なるが故に近年専ら改良奨励に意を注ぎつゝあり其の品質概して優良なり又品種多きが中に眞光寺<sup>・</sup>だらりは大工棟梁某なるもの往時甲斐國より輸入し之れを二宮村大字眞光寺に於て接木し栽植したるものにて蜂屋の稍變化したるものなり俚諺に曰く

むいてむけんものは眞光寺だらり

七つむいたら夜が明けた

<sup>・</sup>大和柿は前濱地方に多く栗野江柿は畑野村大字栗野江に始めて植栽せしを以て名づく甘柿は方言「キザハシ」と稱し往古より栽培すと雖も其の結果良好なるもの鮮し

是氣候の關係に依らんか従前より澁柿は串柿又は吊り柿として北海道地方へ販出し其の需用年々多きに達せり然れども此國の柿は其の種類善良ならざるを以て郡に於て明治四十年より良種苗を購入し或は無償配布をなし一面に於ては種々一定の穂木を以て農藝員を各町村に出張接木せしめつゝあり。

<sup>・</sup>葡萄栽培の適地は新穂村大字舟下、皆川附近にして毎戸必ず自宅地内に葡萄樹の栽培を見ざるはなく而して此收益一戸十圓乃至三十圓に達し年々其の栽培を増し農家の副業として頗る有利なる事業の一に數へられ居り尙其の選種の方法と肥料の選擇及び栽枝の技術等を研究しつゝあれば將來多大の利益を收むること敢て難からざるべしとなり。

**耕地整理** 本事業は實に國本培養の一基礎にして最も重要なる國家的事業に屬す殊に内地産米に對する需要の増加は自然供給不足を告ぐるに至るべきを以て政府は生産の増加を計る爲め耕地整理の斷行を奨励せり此國の氣候風土地勢主作物の關係及



び耕地の現状に鑑み極めて焦眉の急務とする所にして耕地總面積一萬二千町歩の内五千町歩は可整理地にして全部完成の曉には少くとも年々二十萬圓以上を増收し得る豫想なれば經濟上頗る重大の關係を有<sup>す</sup>故に郡是として極力之れが獎勵に努めつつあり明治三十七年度より縣に於て部分調査及び工事の監督、實施勸誘等に當り三十九年度より國庫の補助を得ると共に更に基本調査を實施し尙四十年より工費に對し一反歩一圓以下の割合を以て補助を與へ且暗渠排水の獎勵をも加へられ四十一年度に至り更に手續指導を與へらるゝに至れり抑國中地方即ち二宮、金澤、吉井、新穂、畑野、眞野、八幡七箇村の耕地約四千町歩の大面積は縣道相川線と國中線の間在る天然の一大區劃にして此國中樞の沃野なるも其の中央を貫流する國府川沿岸に於ける湛水及び新穂川新保川其の他急勾配なる各川の汎濫土砂の流出は肥沃なる國中郷耕地の大缺點にして久しく同地方人士の焦慮する所なりしが勸業に熱心なる前郡長深井康邦氏の深慮と農事思想の進歩と地方人士の發奮とに依り先づ以て耕

地整理基本調査を施行し爾來事業の施行に對し着々其の歩を進めつゝあり。茲に特筆すべきは耕地整理施行前<sup>先</sup>づ以て全區域に關聯する水利交通の根本的土木工事を實施せんとするに在り今や縣廳より技術員を特派せられ實地測量調査に従事せり此計畫にして實行せらるゝ曉に至らば實に耕地の理想的改良を實現するものと云ふを得べし左に耕地整理の現況を示す。

町村名	竣功したるもの		工事中のもの		認可手續中のもの		計畫中のもの	
	ヶ所	面積 歩	ヶ所	面積 歩	ヶ所	面積 歩	ヶ所	面積 歩
河崎村	一ヶ所	八三、四〇〇					一ヶ所	一〇〇、〇〇〇
新穂村	一ヶ所	三三、四〇〇						
新穂、金澤、畑野、吉井村聯合					五ヶ所	七、三八〇、〇〇〇		
金澤村	四ヶ所	三、七四〇、〇二二	二ヶ所	二、三〇〇、〇〇〇	二ヶ所	一、九〇〇、〇〇〇		
加茂村	一ヶ所	三〇、〇〇〇			一ヶ所	七〇〇、〇〇〇		
羽茂村							一ヶ所	一四〇、〇〇〇
二宮、八幡、金澤三村聯合					一ヶ所	二、六〇〇、〇〇〇		



吉井村	三ヶ所一、〇五、六〇
二見村	一ヶ所 一毛、八〇
畑野村	一ヶ所 四四、四八

**堆肥製造** 農業經營上合理的肥培の方法を講じ少費多收の實を擧げ農家經濟の豊裕を圖るには堆肥使用より急務なるはなし此國は藁細工業盛んなるを以て越後の如く田圃中に藁を堆積すること少し故に明治四十一年中斯業に堪能なる千葉縣人越川善七氏を聘し越川式堆肥製造法を傳習せしめ在來の製造法に一大改良を促し又郡農會にて品評會を開くこと五回極力製造の熟練と肥料舎の増設を奨励したる結果現在四百五十九棟の建設を見るに至りたるも之れを農家總數に對比すれば僅に其の百分の三強に過ぎず施肥の進歩と消費の増加とに顧る時は農政上轉た遺憾に堪へず郡當局は夙に農家一戸に一棟の堆肥舎を建設するは敢て困難に非ずとの理想を有し殊に昨年來米價の暴落に伴ひ農家の困憊其の極に達し本年仕入の肥料資金調達難を訴ふる今日自給肥料の潤澤は現下の緊急問題なるを以て郡農會にては本年再び越川氏を聘

し溫習的講習會を開くの計畫あり想ふに此國の堆肥製造は遠からずして嶄然勃興するならんか。

**牛馬耕獎勵** 農業經營上<sup>勞</sup>勢力の節約を圖り耕種肥培の周到を期するに於て牛馬耕獎勵の必要は多言を要せず之れを此國の現況に徴すれば田畑耕作反別一萬二千三百二十七町歩に對し現在實行反別三千七十九町歩にして僅に全反別の約二割五分に過ぎず而かも此國の如き畜產地に於ては敢て耕牛馬に缺乏を來すの憂なく極めて利便の地位にあるを以て農家は競ふて之れを實行し其の節減し得る勞力を移して二毛作の栽培或は一般の副業に力を注がば農家生活の潤澤を期し得べし故に郡農會にては連年競犁會、又は傳習會を開催する町村には教師を派遣する等之れが指導獎勵に努めたる結果吉井、加茂二村の如きは牛馬耕組合を設け又新穂、金澤、畑野の諸村は村内の老練家を雇ひ傳習を開く等着々効果を奏し居れり。

**增收競作** 郡農會にては昨年來米作增收を企畫し之れが獎勵の方法として稻作の收



穫一反歩三石五斗以上を得る者に對し一定の方法に依り審査を行ひ賞金を授與するの懸賞規定を設け競作會を開催して専ら當業者を奨励しつゝあり。

**農業上の新財源** 最近の調査に依れば此國に於て田地に開墾すべき土地は山林に於て三百二十七町歩原野に於て十九町歩又畑に於て三百七十町歩合計七百十三町歩にして尙林野を畑に開墾すべき土地は四百四十四町歩なり更らに郡當局者の調査に依れば以上の外溜池の新設或は水路の工夫に依り此國全體に於て今後少くとも千町歩内外の新田を増歩し得べしと且耕地整理及び田區の改正に依り無用の畦畔及び道路等を排除せば之れに依り五百町歩内外を得べく即此兩口を合計したる千五百町歩内外は今後更に開墾し得べき土地なり之れに現在の八千餘町歩を加算せば實に約一萬町歩を得べし今假りに一反歩二百五十圓と定むるも此總價額實に二百五十萬圓の巨額に上る是此國の新財源たるべきなり。

### 蠶絲業

蠶絲は本邦物産中須要の地位を占め常に國家經濟の基礎を成せるのみならず此國に於ても亦重要な物産にして其の農家經濟を助長しつゝあること敢て多言を俟たず養蠶 此國に於ける養蠶事業の沿革は記録の徵すべきものなきを以て未だ詳かならずと雖も平城天皇の大同四年越後佐渡絹七十束綿八束を納め光孝天皇の仁和三年民部省に於て風害諸國の貢調庸は越後佐渡隱岐の三國は明年七月を限りて納め終はらしむとあり又藩政時代に養蠶奨励の事跡あるを視れば其の起源は甚だ遠しと云ふべし然るに該事業が他の物産に比し甚だ不振の狀況にありて常に發達の歩調を他國と共にすること能はざるの憾みあり即ち現在桑園反別僅に八十四町歩に過ぎずして之れが桑園の種類は市平、多胡、赤木等を主とせり大正三年に於ける飼育戸數掃立枚數及び産額を表示すれば左の如し。



種別	飼育戸數	掃立枚數		額				
		普通製	框製	繭	玉繭	出殻繭	屑繭	合計
春蠶	四六戸	一三枚	二四、〇七四	二九石	四三石	二石	一七石	六六石
夏蠶	三	—	三、二六	一四	二	—	—	一六
秋蠶	一七	—	一四、七六	九	一五	—	三	二六
計	六六	一三	四、九六	四二	五	二	二〇	四三

**製絲** 製絲の戸數は百三戸にして其の製造高は生絲七十貫熨斗絲四貫生皮苧三貫屑物九貫五百匁真綿三十一貫五百匁なり。(大正三年)

**養蠶の適地** 此國は農業地として新潟縣の二十分の一に該當するが故に本縣の蠶業養蠶家約五萬一千戸收繭額約七萬九千石の現状より打算する時は約二十萬圓の蠶絲業收入あるも可なるに僅に五百石未滿の收繭其の價額一萬五千圓に達せざるは抑何故なるか世間の多くは風土乃至經濟事情に適當せざるに原くとすも其の然らざる所以を略陳せん此國は海上の孤島なれども其の氣候は養蠶季節中降雨少く空氣乾燥

し之れを越後の養蠶地方に比するに頗る優秀なるを認めり且農家は概して高燥の地に居り家屋亦狭少ならず蠶種を飼育するの設備に困むが如きこと尠しとす斯くの如き情勢にして蠶絲業の振はざるは頗る疑問に屬す今其の原因を按ずるに左の四點に歸せざるを得ず(一)山桑に依頼したる事(二)不良なる蠶種を飼育したる事(三)飼育の技倆拙劣なりし事(四)販路の不便なる事之れなり顧みるに此國には桑園となすべき土地頗る多し現在の畑地約四千町歩の八分の一即ち五百町歩を桑園となすことを得べく其の他路傍堤塘荒蕪地等を利用するに於ては肥沃の桑園を得ること亦容易なるものあらん。

**桑苗養成** 蠶業の振興は其の原因多々ありと雖も給桑の豊富に俟つ所多大なり深井前郡長は茲に視る所あり明治四十三年の郡會に桑苗養成七年計畫なるものを提案し郡會亦之れを容れ毎年六百圓宛の郡費を支出し今や已に其の半を過ぎたり其の計畫に依れば此國の農專業家約九千戸従業者約四萬七千人あり之れを標準とし一戸平均



一石の收購を爲さしめ園國に於て收購五千石乃至一萬石に達せしめんとするに在り即ち其の一期計畫として桑苗養成七ヶ年を期し五百町歩の桑園を完成せんとするを目的とす而して其の苗數は八十四萬本にして毎年十二萬本を配付し又桑園は根刈百町歩に對し所要苗六十六萬本高刈三百町に對し所要苗十八萬本とす此他本縣桑苗圃郡農會桑苗圃より配付すべき桑苗毎年五萬本内外あり若し根刈希望者多くして豫定桑圃の増殖に不足を告ぐる時の補充方法は此二者を以てするなり而して桑苗の養成は郡立農事試驗場町村農會に於て施設せしむるの外國内の青年會に委託して桑苗養成に當らしめつゝあり此計畫にして完成の暁は此國物産中重鎮たるの位地を占むるに至るや必せり。

**稚蠶飼育** 此國の當業者は從來春蠶を主とし秋蠶の如きは深く顧みざるの傾向なりしも農家の副業として春蠶を多く飼育すれば本業を阻害するの虞もあり秋蠶は氣候も比較的變化なく又農閑の時期なるを以て副業として極めて適當の期節なりとし蠶

絲同業組合にては大正二年七月始めて西三川村に秋蠶稚蠶共同飼育所を設け爾後各所に設置せり又糸質を善良ならしめんが爲め新穂畑野二宮加茂河崎羽茂小木西三川の各地に共同飼育場を設置し養蠶教師をして飼育法の指導を爲さしめ専ら稚蠶飼育上の革新を圖りつゝあり。

**其他の獎勵施設** 更らに蠶絲業に對する施設獎勵を記すれば(一)郡農會は明治四十年より郡會は同四十四年より毎年一千二百圓の經費を投じ一町五反餘歩の苗圃を設け毎年十二萬本の桑苗無償配付を行ひつゝあり(二)郡立佐渡農學校にては養蠶科を設け専ら蠶業上の知識を修めしむ(三)二宮、河原田、河崎、羽茂の各小學校及び佐渡實科女學校(金澤村立)に於ては養蠶の實習を行はしめ且製絲法を授く(四)主要なる養蠶地即ち新穂村小木町にては養蠶家をして協同一致斯業改善を促すの機關として蠶絲會を設置せり(五)此國の交通不便に加ふるに繭の産額僅少にして其の販路困難なるを感じ産業組合法に依る蠶業生産購買販賣組合を新穂村に設け縣補助に依り完全



なる乾繭機械を備へ足踏器械並に縣補助に依る場返器械を据る附け組合員の生産したる繭は之れを製絲し又組合員外の依托製絲を受けつゝあり上述の如く該事業に適切なる諸種の施設をなし官民協力一致して専ら之れが發展に努めつゝあり。

### 畜産業

畜産事業の進否は農業經濟に至大の關係を有し殊に牛馬の改良増殖を圖るは最も急務とす該事業たる此國重要物産の一にして最近の調査に依れば佐渡地牛七千二百二十頭南部又は但馬牛八百九十六頭外國種百七頭計八千二百二十三頭にして尙増加の趨勢を示せり産馬の狀況は産牛に比し遙に下位にあり生産極めて少く體格亦矮小なり家禽の飼養は未だ幼稚の域にありと雖も專業的經營法に依るもの少く所謂副業たるの主眼を失はずして永久的に飼養するもの多きに趨くの現象を見るに至り而かも勤儉貯蓄の一端として鶏卵の産出を獎勵しつゝあり。

牛 佐渡牛は古來より著名なり大寶令に牧牛を獎勵せられ各地に牧場を設置せし歴史あれば其の起因は極めて古きを知るべし寛永十九年の奉行書に「牛馬他國へ出しか候事堅く法度に候事」とありて當時牛馬の輸出を嚴禁せり慶應二年に至り「他國へ牛馬を出す時馬は十分の一牛は二十分の一の役銀を賣買兩主より半分宛取可申」と課税の達書あり始めて牡牛馬輸出の禁を解きたるも尙牝牛馬の輸出をば絶対に禁止せり寶曆年間に至りて全く之れが禁令を解きたるものゝ如し慶長年間願村(今外海府村大字願)寅之助(現代山本龍藏の先代)なるもの斑牛(和蘭牛今のホルスタインならんかと云ふ)を飼育せんと欲せしも人皆之れを恐れて拒むに依り自ら官に請ひて斑牛を輸入し在來種に配したり次で京都地方へ旅行の際大津に於て地方の牛車を視其の體軀の偉大なるに感じ神戸より但馬牛の種牡を購入し來れり之れを佐渡牛改良の嚆矢とす明治十七年金澤村大字千種橋善吉等の首唱に依り同村大字新保に佐渡牧畜會社を組織し始めて普ねく其の種類改良及び蕃殖を圖ることを得たり同十七年に至り洋牛(種類不明)を輸入せり是現在改良種の元祖な



り爾來洋牛を輸入すること漸く多しと雖も尙混血牛は總數の三分の一に出でず。

**馬** 現在千六百五十七頭あり高千、外海府、加茂の三村最も産出多きも其の大部分は輸入に係れり明治四十二年馬政局より貸付せる種牡馬暈駒トロッター雜種博染アラブ雜種の二頭にして孰れも毎年三月より七月までに種附を了るものにして一ヶ年約四十頭を生産す而して馬政局貸下の種牡馬に限り改良蕃殖の跡顯著なるを以て生産牛馬を審査品評し一層當業者の發奮獎勵を促し延ひて地方の産業發展に資せんが爲め昨年十一月中馬の産地たる高千村字入崎に於て畜産共進會を開設し大に斯業の發達を促せり

**特殊なる放牧法** 國中方面は敢て他國に異ならざるも佐渡牛の産地たる内海府、外海府、高千、金泉、加茂地方は特殊なる放牧法を施せり其の飼養は至て簡易にして春期牧草の繁茂する頃に至れば牧舎より出し原頭に放牧し置けば氣候の暑熱と共に漸次芳草を追ふて山林に入り遂に絶頂に至りて栖息し更に秋風落葉の候に至れば寒冷

の氣に隨ひ自然に山を下りて其の飼養者の牧舎に還り其の間に蕃殖して犢を伴ひて還るもの多し此の自然飼養法は此國と隱岐のみにして他に比類なしと云ふ尙佐渡牛の特性を舉れば(一)疾病に罹ること尠し(二)粗食に堪へ(三)四肢健全にして峻嶮なる山道の運搬に適し且歩度早し(四)田區の犁起に適し(五)生肉として香味佳良水分少く腐敗すること遅し(六)罐詰として量目の減少鮮し(七)性柔順にして牝牡牛を問はず鼻環を要せざること等なり。

**種牛飼育** 從來各種の外國種牛を入れ其の蕃殖を圖りつゝあるも主として乳用牛に重きを置きたる傾向あり然れども佐渡牛の聲價たる海府産の内國種にあるは無論なれども尙一段の改良を加へ價値を増すの必要あるを以て適當なる種牛を選択すると同時に種類の統一をも考察せざるべからず茲を以て佐渡産牛馬組合にては大正二年中本縣より但馬系種牡牛四頭の貸下を受け高千、内海府、畑野、加茂の各産地に配置し役用兼用種の改良蕃殖を奨励せし以來年々之れが育成に努め本年は縣より貸付



に係る五頭の縣有種牡牛の外國内生産に係る優良種牡牛五頭を購入し之れを高千、  
外海府、内海府、加茂の各畜牛生産地へ配置し佐渡固有牛の改良蕃殖に充つること  
となせり。

**牧場** 産牛馬組合にては明治四十四年三百五十町歩の青野牧場を經營し設備の完成  
と畜牛の改良肥育とを圖りしに今や其の好成績を挙げたりと雖も地域の狹隘を告ぐ  
ると連年同一の地に多數の家畜を放牧する時は牧草を荒廢し且害蟲發生の虞あるを  
以て更に大正三年に至り金澤村八ヶ村共有地たる新保山に牧場を新設し輪番放牧の  
方法を採り以て山野の保護を加ふると共に益牛馬育成の完全を期せんとす

**種牛繫留** 海府地方の慣習として三歳に達すれば先づ其の大なるものより漸次賣拂  
ふを例とす殊に牡牛を早く賣り拂ふが爲め從來使用する種牡牛は三歳未滿の幼牛な  
り佐渡牛の體驅他に比して矮小なるは蓋し之れに原因すること少からざるべし茲に  
於て明治四十三年以來郡費より一頭に付十圓の種牛繫留料を補給し優良なる種牛の

移出を防止し海府地方良種の蕃殖を計れり。

**飼料共同購入** 大正三年より新設の事業なり家畜の飼料は近年著るしく昂騰したる  
爲に畜産業の發達を阻害するに至れるを以て産牛馬組合にては之れが救済方法とし  
て他國より飼料を共同購入し運賃雜費を補給し指定販賣所(河原田町丸五方)を開始し組合員  
に限り實費を以て販賣し經濟上の利便を與へつゝあり。

**去勢獎勵** 純良なる種牛を入れ改良と蕃殖とを圖らんとせば不良牡牛の去勢を行ふ  
に非れば純血種の蕃殖を望み難し此國にては明治四十二年始めて施行獎勵したるこ  
とありしも爾來中斷して未だ實績の見るべきものなきは遺憾とする所なり抑去勢せ  
る牡牛は性質溫良となり使役上多大の便益を及ぼすのみならず其の肉も亦非常に良  
好にて經濟上有利なるを以て先進地の當業者は競うて之れが手術を施しつゝあるも  
此國は役用種の大部分を占むるも古來迷信的習慣浸透の爲め斯る有利なる改良事業  
も未だ成績を擧ぐる能はざるを以て産牛馬組合にては囑托獸醫をして希望者には無



料を以て施術をなさしめ一層普及に努めつゝあり。

**除角獎勵** 惡癖牛の除角を獎勵し畜牛の飼養に便せんが爲め産牛馬組合にては無料を以て施術をなさしむ。

**家畜市場** 市場の盛衰は家畜の改良獎勵に至大の關係を有するを以て生産者及び商業家は賣買取引を公平圓滿にし其の市場の發達を圖らざるべからず此國の産牛馬組合にては明治四十四年二月一日より實施の家畜市場法に依り同年四月定期市場を河原田町市場イチバに設置し猶内海府、外海府、加茂、高千、金泉方面其他に臨時家畜市場を設け専ら産牛馬組合員の便利を計り兼て賣買取引を圓滿にし從來の惡弊除去に努めたる結果逐年其の市場の繁昌を來しつゝあるも元來交通不便なるが爲め他國より牛馬商の參加なきを奇貨とし國內の牛馬商バククラフ(方言馬喰)が往々生産者を苦ましめ牛馬の價額を自由に支配するの傾きあるを以て産牛馬組合に於ては之れが取締方法を講じつゝあり尙大正三年家畜市場の成績は臨時市場開設二十個所にして出場頭數牝牛四

百五十六頭牝牛三百四十六頭牡馬三頭にして此販賣價額牝牛三千四圓牝牛二千六百七十六圓牡馬六十七圓なり。

**牧場視察** 産牛馬組合にては専ら牧場の調査及び畜牛の販路擴張をなさしめんが爲め大正二年中信越地方の視察を第一として年々視察員を派遣せり。

**講習及講話** 此國は産畜地方なるに拘はらず他の産業に比し比較的進歩の程度遅緩なるは一は斯業に對する知識の向上啓發する所乏しきに因るを以て農閑の時期に於て講師を聘し畜産に關する講習及び講話を開催せり。

**畜産共進會** 畜産改良の進捗には之れが共進會を開き甲乙品騰を試むること亦緊要なるを認め明治四十四年中河原田町に於て第一回共進會を開催し専ら犢駒を品評して大に斯業の發達を促し第二回を大正三年中高千村に開設し當業者を誘導獎勵し以て斯業の向上に資せり。

**販路** 佐渡牛が役用として珍重せられ殊に體軀大に失せず山野の運搬用に最も適當



なることは既に世間定評のある所にして又肉用としても其の味美にして到底外國種の及ぶ所に非ず從來食料品として他國に輸出する生牛は千數百頭に上れるが今之れを屠殺し牛肉として輸出するに於ては幾倍の利益を得るより河原田町石原五之吉氏は大正二年中新潟市に佐渡産牛馬組合指定牛肉販賣店を開始したるが肉質の優良なる爲め非常の好評を博し猶一層弘く世上に紹介して佐渡牛の聲價を高め内は益々蕃殖を奨励し外は縣下各地を始め進んで長野東京方面に販路を擴張せんと計畫なり因に昨年中河原田屠獸場に於ける屠殺數は、五百五十五頭にして之れを別てば成牛五百三十一頭、馬二十二頭、豚二頭其の總計斤量は八萬五千九百五十六斤にして之れを別てば牛八萬二千五百五十四斤、馬三千二百斤、豚二百二斤なり其の價額の總計は一萬九千八百六十二圓四十八錢四厘にして内譯牛一萬九千五百六十四圓八錢四厘馬二百八十二圓二十四錢、豚十六圓十五錢なりとす。

**養鶏** 特記すべき點なし大正三年の統計に依れば鶏成禽一萬九千八百十四羽あり畑野村西三川村羽茂村其の他各町村に分布す西三川村山本當次郎氏は畜産家にして又養鶏家たり明治二十三年より養鶏事業を營み同村の養鶏をして隆盛ならしめたるは氏の功與つて力あり。

### 鑛業

**鑛業** 天保の歌人藏田茂樹の和歌に曰く「よしといふ吉野の春もしかじかしこは黄金の花の國なり」佐渡は古昔より金銀の産地を以て知られ固形鑛物界に於ける聲價は殆んど海内に獨歩し幾百の歲月を経て今尙新鑛脈の發見と掘鑿法の進歩と相俟て年々其の産額を増進しつゝあり。

金があるとして高慢ぶるな佐渡ぢや蚯蚓が糞にひる(俚諺)

是れ佐渡人の意氣を語るもの彼の白馬金鞍の貴公子を嘲笑し腰纏千萬金の富豪を蔑視す即ち唯一の國自慢たり。

抑佐渡鑛山の起原は西三川村の砂金採取より生まれり傳説に依れば往昔一舟人あり



西三川の山中に來りて葱を買ひ取りしに葱根に附きたる土の中に砂金の混りたるを發見し其の後葱を買ふに托し數々來りて畑中にある金を採り去りたるに畑主後之れを悟りて終に自ら之れを採取するに至れりと天正十七年越後の上杉謙信此國本間氏の一族を滅して之れを領するや此の地の金を採つて軍國の用を辨せしに熟金にして上品なりしといふ天文十一年の夏越後國の商船澤根の浦に纜を繋ぎて終夜天色を望むに金銀の氣空中に顯るゝを怪み旅宿の主人に謀りて地頭本間攝津守に告げ鑛脈を尋ねて鶴子銀山を發見せしも其の功成らざるを歎じて上杉謙信に斯くと訴へければ謙信魚沼郡上田銀山の坑夫を遣し之れを採掘せしむ後産額少くして經費を償ふに足らざりしが慶長六年鶴子の坑夫渡邊ハシノ右衛門等の相川の鑛山を發見し今に至るまで採掘盡ることなし而して其の最も盛なりしは慶長元和の間にして官山のみにも三十餘坑ありて民皆徳川氏厚德の致す所なりとせり後延寶及び元祿にも亦一盛時ありたれども久しからず明治二十二年御料に歸するに及びて慶長元和以來未曾有の盛況

を現はしたりしが同二十九年三菱合資會社に拂下られたり其の他新穂山海府の各地に廢坑頗る多く其の數三十餘ヶ所あり往古は坑夫等の請負事業にして其の個所甚だ多かりしが寶曆中より官業に移し南澤、一丁目、辰巳口の三所に建て床屋と稱したりしを後製鍊所と改め今の製鍊所の成るに及んで之れを廢せり當時は専ら人力を用ゐる其の器械の如きは鐵槌、石臼、木板、藁筵の類に過ぎざりき然るに今は採掘製鍊共に新式に改め其の完備整頓せること全國無比なり。

**佐渡鑛山** 相川町北澤川の上流にあり所謂佐渡金山サドノカナヤマと云ふものは是れなり久しく上杉氏の所領たりしが慶長五年徳川家康の海内統一と共に幕府の直轄に屬し採金の額更に増加せりと傳ふ佐渡奉行之れを掌り維新後御料局の經營となり尋で三菱合資會社に拂下げらるオホタテ（明治二十九年）現今採掘面積百九十八萬三千〇十坪あり高任、道遊、大立オホタテ、大切オホキリの四大坑に分れ其の深度地表より一千百五十尺に達し坑道の延長七里二十五町四十六間四尺餘に互れり採鑛は上下の二種に選別し上鑛は鉛と共に熔鑛製鍊



に附し下鑛は搗鑛器にて水銀と共に「アマルゴム」として抽收し鑛尾は砂鑛と泥鑛とに別ち何れも青化法に托し亞鉛を以て金銀を沈澱す而して之れに要する原動力は一  
千二百馬力(電氣力九百馬力 蒸汽力三百馬力)に達し晝夜運轉を停止することなし又大間海岸の倉庫よ  
り高任坑外に至る六千四百三十二尺の間及び第二搗鑛場と大立坑との間に鐵索(綱  
車道)を架設し鑛石の運搬、石炭の供給に便せり其の産物は金銀銅の三種にして年  
産額平均金七十萬圓銀二十萬圓銅は至つて尠く總計九十萬圓餘に及べり又海邊一帯  
に砂金採收場あり今大正三年の産出額を左に示さん。

金 一四六、八六七  
銀 一、三八五、四八一  
銅 二一、四七八

**高千鑛山** 高千村に在り入川、立島の二大坑に分れ其の鑛區面積二百二十七萬五千二百七十九坪あり入川鑛區は入川の上流にあり往時銀を採掘せし痕跡ありしを明治三十九年林某が北海道の人遠藤某の出資に依り採掘したるものにて明治四十四年十

一月三菱合資會社の所有に歸し芝金、赤岩、濃金の三坑に分れ其の深度孰れも千尺に達し採鑛は之れを相川の佐渡鑛山に輸送す立島鑛區は北立島に在り三菱合資會社の有なり鑛山より海岸まで七千尺の鐵索を設け一日平均二十五噸の鑛石を運搬し之れを海岸より汽船に積載し相川の鑛山へ運漕して製鍊す。

**鹿ノ浦鑛山** 金泉村大字戸中及び高千村大字南片邊の境界に跨り海岸を距る二十餘町に在り佐渡鑛山の支山として三菱合資會社の經營に係れり其の産物は硫化銅鑛にして採掘せる鑛石は海路相川の本山に輸送して製鍊を行へり。

**笹川砂金山** 此國最始の鑛山にして西三川村に屬す慶長年間より明治維新に至る迄徳川幕府に於て採鑛せし舊跡にして今尙當時水路の形勢を存せり。

**西三川鑛山** 西三川村地内縣道小木線を距る五十間の海濱に在り大阪久原鑛業株式會社の經營に係る明治四十三年十二月試掘し同四十四年五月採鑛に着手せしが其の出鑛の一部は母山なる日立鑛山に運び下鑛は三菱合資會社相川鑛山に賣鑛し事業の



進捗と共に益々發展しつゝありしが本年二月更に瓦斯動力を利用し作業に従事す該鑛區は西三川眞野の兩村に跨り西三川流域以北眞野川に延び南北廣袤二里二十町餘東西幅員約一里にして而かも海岸縣道に沿ひ海陸運輸の便自然に備はれり。

## 林業

此國林野總面積は六萬四千町歩にして内御料林五千町歩を除き民有林野土地臺帳面積は二萬九千五百町歩なりと雖も之れが實測面積は約二倍即ち五萬九千町歩を下らざるべし由來此國の地勢たる其の三分の一は平坦にして其の三分の二は山間にして即ち山林の地なりと雖も森林の荒廢既に久しきに亘れり試に外海府方面を視れば佐渡檜、檜等の繁茂鬱蒼たるものあり特に片邊山を中心とする御料林の一帯は優美なる林相を保ち將來檜の繁茂するに至らば實に雄大なる山林を成すべし且氣候溫和樹種又豊富にして林業經營上頗る有望の地なりと謂ふべし。

明治維新前藩政當時に在ては森林係を置き専ら意を林政に注がしめ造林の法を講じ代採植栽共に規律に依りて經營せられしも維新改革の際林政弛廢し新法未だ備はらざるに乘じ濫伐の弊大に起り植伐其の均衡を保たず遂に森林荒廢の原因をなすに至り原野に在りては野火を放つて之を燒棄するの舊慣あるを以て漸次地力を減殺し延て山岳土壤の崩壞となり河底は之れが爲めに隆起し洪水は年々其の區域を擴大し沿海又不漁を來たせる等影響の及ぶ所甚大にして國土保安上甚だ寒心に堪へざるものあるを以て縣は夙に林野の整理及び造林の急務たるを認め公有林野の整理統一天然造林補助、樹苗下附、林産物製造奨励、開墾期限禁止、保安林制定、荒廢地復舊補助等の方法を講じ本郡當局者亦其の指導の下に着々之れが實行を計りつゝあり。

**郡有林** 郡有林の經營は此國を以て縣下の嚆矢となす今より十三年前即ち明治三十六年の郡會に於て三十七年度より十五ヶ年繼續事業として眞野御料地内に百五十町歩(大正三年に至り更に十一町六反十三歩を追加拜借す)の郡部分林の設計を立て同



三十八年十月二十八日を以て第一回の植栽に着手し杉、檜、松の三種を植栽せり爾來毎年一千餘圓の造林費を支出しつゝ、あり現在の狀勢は約五十六萬本の松、檜、赤松を植栽しあり其の内四十萬本の大部分は杉にして此面積約百町歩以上に涉り其の尤長したるもの十年の歳月を経過せり尙前年縣立苗圃の配布に依り植栽せし吉野杉、紀州杉は、其の成績不良なりしに依り近年此國の風土に適し發育亦旺盛なる會津杉及び佐渡杉を植栽せしに稍改善の緒に就くを得たり郡部分林の經營は收入を目的とする外林業の模範を示して郡内の林業作振の木鐸たらしめんと欲するに在り而かも眞野山の地、東に經塚山の翠を負ひ西に眞野灣の波を湛へ雲煙の間二見の浦を臨む全灣一碧眞帆片帆の來去する風光は俗界を離れて羽化登仙の想あらしむ翻て脚下を見れば未來の棟梁は今や搖籃の裏に在り所謂請看澗畔老松樹寸々延成棟梁材の日蓋し期して待つべし。

**林野開墾** 森林開墾の出願に對しては國土保安上特に知事の許可を受くるの規定な

り昨年中此國の林野開墾總面積は四十二町二段歩にして内田十四町九段歩畑二十二町五段歩なり。

**種子の選擇** 郡事業として郡内青年會へ養成を依托せし杉苗の種子は毎年奈良縣吉野郡川上村上平豐吉、三重縣北牟婁郡尾鷲町土井八郎兵衛等より購買せしが大正二年更に縣下北蒲原郡安田村旗野山林事務所秋田縣龜田町早川小一郎及び國內羽黒、下川茂、羽茂三青年會採收の杉苗を加へ配布せしに造成植林地の氣候風土に適したりと見え其の成績頗る佳し。

**樹苗養成** 本縣にては縣下公有林民有林の荒廢を根本より防止し其の回復を計らんが爲め去る明治三十五年度より同四十九年度に至る十五ヶ年繼續事業として縣内六ヶ所に苗圃を設け總經費三十萬二百六十六圓餘を投じて杉外七種の苗木八千八百八十五萬本を生産し無償下附を爲し以て民有林野の面目を一新せしめんとする計畫を立て明治三十五年度より事業に着手し此國金澤村に樹苗養成所を置き毎年四十萬本の



樹苗を培養せしめ同三十八年度より下附を開始せり而して此國に於ても林業の勵  
 發達を期せんが爲め明治四十年の郡會に於て樹苗養成十箇年繼續事業の計畫を容れ  
 其の總經費四千五百圓を可決せり斯くて縣より下附の樹苗に併せて培養せしむる方  
 針を立て郡當局者は郡内の青年會をして杉苗（桑園と共に）の養成を委託すること  
 となれり然るに縣は財政上の關係に依り明治四十五年度より之を廢止し今は郡のみ  
 其の事業を繼續し所期の目的を達せんことに努め其の成績頗る良好にして昨年秋期  
 に受取りし成苗數量は杉二十四萬六千本にして其の納附町村別左表の如し。

町村名	數量	町村名	數量
二宮	六〇、四〇〇	松ヶ崎	五、三〇〇
金澤	二、二〇〇	岩首	二、九一七
吉井	三、〇〇〇	河崎	二、四五〇
新穂	一一、九四〇	加茂	一、五〇〇
畑野	六、五〇〇	外海府	一〇〇
眞野	四、二〇〇	高千	一三、九〇〇

又本郡各町村部落、農會、青年會に於ける樹苗圃の現在苗木數は樹苗圃箇所二百十  
 五此の坪數三萬七千二百五十九坪樹苗二百四十萬千五百十本にして之を區別すれば  
 即ち左の如し但し該木數中には本郡にて養成配附したる樹苗をも包含しあり。

樹種	村	個	人	部落其他團體
杉		二二、〇〇〇		五〇二、五〇〇
扁柏		一〇、〇〇〇		二五七、五〇〇
落葉松				二八、〇〇〇
黒松				二、七〇〇
桐				一、一〇〇
桑				二、〇〇〇
櫻				、三五〇
檜				、三〇〇

木炭改良 此國は木炭の産地にして最近に於ける數量は約二百貫匁にして縣下の第



一位を占め其の輸出優に百五十萬貫匁に達す然れども其の品質猶粗悪の域を脱せず且つ其の荷造等亦一定せざるが爲め未だ市場の聲價を博するに至らず本縣にては之れが改良を計り大正二年中此國外海府村に於て製炭改良講習會を開き本年五月亦加茂村に開催し竈の築造法白炭黒炭の改良製造法、煉り方、炭材の選擇等を講習せしめ大に斯業の改良を奨励せられたり從來佐渡炭第一の弊は製炭業者が粉炭土石等を混入するに在り之を防禦するには製造組合又は共同販賣等を組織して嚴重に検査を行ふに如かずと爲し郡當局者は目下其の方法を講究中なり近年粉炭をカーバイトの原料として輸出するの道開けしに依り佐渡木炭の改良せらるゝも蓋し遠きに非るべし。

**椎茸栽培** 本縣下に於ける椎茸栽培地は此國と岩船郡のみ此國は椎茸の原料に富み且水運の便を極む明治三十七年中大分縣人那波善吉氏來り高千村大字南片邊の部落有林字船山に於て之れが栽培を始め其の方法は所謂九州式にして炭火を用ゐる焚火に

依らず乾燥室は簡易なる土藏式を用ひ明治四十年中御料局に於て高千村大字北片邊字内山御料地に於て椎茸栽培に着手され爾來今日に及べり、其の他高千、金泉、二宮の諸村にも栽培するもの増加し前途好望の事業となれり大正三年に於ける椎茸の生産額は四千九百二十七斤其の價格四千九百二十七圓なり本縣にても教師を派遣し栽培方法を講習し實地指導に努めつゝあれば他日收入を倍獲するに至るべし。

**林産物** 此國林産物の種類にして其の價格の多きは丸及び角材にして挽材、竹材等之れに亞ぎ副産物としては木炭を始め下草、樹實、苗木、石類、椎茸等を重もなるものとす大正三年に於ける林産物の數量價格を細別すれば左表の如し。

林産物種類	數量	價額
丸及角材	七九、一七三	三〇〇、〇二九
挽材	一二三、二二〇	九〇、二〇四
搏木	一四、六七一	四、〇一六
鐵道枕木	一四〇	六三
車輛用材	二九五	一、四七四

林業



佐渡産業案内															
下	竹	杉	竹	樹	染	苗	木	椎	松	諸	石	土	自	下	合
材	材	皮	皮	皮	料	木	炭	茸	茸	菌	類	類	類	草	計
一八、一四八	九七、三〇九	一五、五八五	二〇、七〇〇	五、七四五	四、二七〇	三、一三七、八三〇	一、八〇一、四六〇	九二七	一、六四六	一、二〇七	一三、九九四	七、七一〇	三〇、三〇〇	九三一、五〇〇	
五二一	一八、一五〇	七三、八八七	二、七九三	二、一八七	五、二五〇	九、三二三	一二六、一〇二	二四九	五二七	三六三	七、一八五	二、七〇	二、七九五	四、六五八	六五〇、四八二

模範施設學校林 小木町小木尋常高等小學校並に宿根木尋常小學校は將來教育の獨立を計る目的を以て明治三十五年より學校林の植栽を實行し其の成績良好なるを以て共に昨年十月三十一日本縣より表彰されたり小木學校林は小木町字寒<sup>ササ</sup>に在り其の面積十五町六段八畝二十五歩に杉、檜、落葉松、羅漢柏を植栽し大正二十一年度第一回伐採期に三萬二千七百七十七圓を得又大正三十二年度に至り二萬四千六百九十一圓を得合計五萬七千四百六十八圓を全部同校の基本財産に編入する計畫なり宿根木小學校は字大松ヶ平、字加井渡の二ヶ所に在り其の面積八町四段十八歩に杉、檜、落葉松、羅漢柏を植栽し小木校と同じく大正二十一年度と大正三十二年度の二回に伐採金三萬五千七百三圓を得全部同校の基本財産に編入する計畫なり知事の表彰文左の如し。

新潟縣佐渡郡小木町

其町小木尋常高等小學校林施設經營宜しきに適し成績見るべきものあり仍て金二十圓を賞與す

大正三年十月三十一日

林業



新潟縣知事從四位勳三等

坂

仲

輔

○ 新潟縣佐渡郡小木町

其町宿根木尋常小學校林施設經營宜しきに適し成績見るべきものあり仍て金二十圓を賞與す

大正三年十月三十一日

新潟縣知事從四位勳三等

坂

仲

輔

**神宮獻木** 佐渡は古來名木の産地を以て著る越前敦賀なる官幣大社氣比神宮社前に異彩を放てる朱塗の大鳥居は今や特別保護建造物と定められたり一樹の本末を以て之を造り其の高さ實に三丈六尺あり此樹は正保二年此國新穂村大字潟上鳥崎に産せし杜松なり今回明治神宮御造營に當り其の神域に植栽すべき樹木を獻納せんとし佐渡青年會より檜、杜松、榎、榺、ユツリハの諸木を獻納せんことを明治神宮造營局へ出願せり。

**保安林** 國土の保安に關係ある森林に對し行政處分を以て或行爲を制限し國家公共

の利益を保持するを目的とし森林法に於て特に保安林なる項目を設け一般國有林と區別せり郡當局者は水源涵養、風致保存、風潮防止、飛砂防備、魚附林等の設置を急務とし將來利害關係の重なるものより順次本縣の調査を請ひ之を保安林に編入し其の取締を勵行し國土保安の實を擧げんことに努めつゝあり大正三年度末に於ける保安林面積は二百十二町歩にして標柱建設箇所は四百五ヶ所にして其種別面積を示せば左の如し。

種類別	箇所	面積
御料	三	一一一、四二八
部落	一〇	一、七二〇、八一七
社寺	三七	九一、三〇七
私	三五五	一三六、二二三
治水事業		五五

**治水事業** 水を治めんと欲せば須らく山を治めよ林業の振興は山の利益を増進する以外更らに治水の根本を立つるなり由來此國には大河と稱すべきものなしと雖も山



脈連亘丘陵起伏し平坦の地少く降雨毎に土砂を崩流し川床を埋め流域の被害に罹るもの甚だ多し中にも此國最大の國府川沿岸を第一とす明治三十年の大洪水以來荒蕪地となりしもの今尙多く其の幹流たる上川、中川の如き年々出水毎に堤防の破壊を延長し土砂上流より浸入し川床爲めに閉塞し一段歩の良田中二畝歩内外の土砂突兀たるもの所在に見るべし深井前郡長は郡民の困厄を見るに忍びず之れが救済に苦慮する所あり一面縣に對して測量調査を求めて改修の方法を講究し一面關係七ヶ村（二宮、八幡、眞野、畑野、新穂、吉井、金澤）の水利組合に對し從來の如く個々分離し各其の方針に基き事業を遂行せんとするが如きは治水の大目的を達する所以に非るを以て各其の小組合を打て一團となし合同の力に依りて多年の懸案を解決し其の利益の享受を期すべきことを德憑し大正元年十月國府川本支流の水害豫防を目的とする國府川治水會を設立せり爾來協議を重ねるも改修に依り組合中利害を異にするものあるを以て未だ設計着手に至らずと雖も遠からず意思疏通し根本的解決を

遂げ一致協力以て治水の實を擧ぐるに至るべし猶本縣に於ても大正三年度より五箇年繼續事業として治水上の調査を遂げ之れが決定を與へ山林の荒廢地に對しては保安林其の他編入の解除を爲すことに内定せしが該年度内に調査すべき此國の河川は左の如し。

國府川、石田川、藤津川、新保川、小倉川、竹田川、瓜生屋川、大野川、羽茂川、久知川、長江川。

因に此國に於ける水利組合（普通水利組合及び水害豫防組合とも）は總計十六にして特記すべきものなければ一括して左に表示す。

名稱	管理 者
上川 水害豫防組合	新穂村 長
中川 同	同上
大野川 同	畑野村 長
三宮川 同	同上



谷地川	水害豫防組合	眞野村	長
國府川(糸流)	同	同	上
新保川	同	金澤村	長
藤津川	同	同	上
石田川	同	二宮村	長
石田川	同	同	上
石田川眞光寺	同	同	上
山田外三	大字普通水利組合	二宮村	長
石田川	同	八幡村	長
字中の入溜井	同	金澤村	長
字外谷地川	同	新穂村	長
千種西郷	同	金澤村	長

竹林の經營 此國の竹林は其の繁殖旺盛なり蓋し本邦に於ける竹の産地を擧ぐれば先づ指を此國と京都に届す若し京都を西の大關とすれば佐渡は東の大關たるべし試に見よ新潟より佐渡に渡航する者は船の佐渡に近くに隨ひ其の左舷に當り前濱東濱一帶の山容皆藕葉を覆ひたるが如く滿眼の青色餐すべきものあるを是皆天然的竹林にして萬竿風を啣み類嵐海に入り其の峭緑の眺望甚だ佳なるに非ずや。

にして萬竿風を啣み類嵐海に入り其の峭緑の眺望甚だ佳なるに非ずや。最近の調査に依れば本縣の竹林總面積約千町歩にして内此國は約五百町歩を有せり然れども其の經營に至ては多く粗放に流れ空しく遺利を放棄して顧みざるものあり郡當局大に之れが改善を計り從來の施設に對し更らに一段の意を加へ本年度より新たに竹林經營を奨勵し各種林産物の増進を期するの方針を立てたり。蓋し佐渡の淡竹は天明以前諸所に繁茂せりと見え寶曆六年高田備寬の著せる佐渡四民風俗に「河原田町にて安永の頃より竹の皮の笠を仕立候儀女の業に致し多く仕出し他國へも賣出す云々」とあるに依つて知るべし竹の皮笠は淡竹の籜にて作るものにて之を製作して輸出せるを見れば淡竹の繁茂せしこと明白なり孟宗の佐渡に入りし年代は詳ならざれども安永より遙に後の事に屬するなるべし。

竹の種類 此國現在竹の種類は概ね左の如し。

孟宗竹 孟宗竹に三種あり續西遊記には唐孟宗竹として之を分てり漢名狸頭竹一



名猫彈竹又猫兒竹と云ふ國史草木混蟲致に孟宗竹正徳中山(琉球)人種を薩摩に致したり今は即ち四方に繁茂すと云へり佐渡に入りしは亦遙か後の事なるべし。

眞竹 漢名苦竹、ニガタケともカラタケとも云ふ、ナヨタケ、一名カハタケの漢名苦竹と云ふものと同名異種なり仁壽殿の御庭に植ゑられたる河竹と云ふは御溝水近きにある故の名なりと云ふは未竹には非るなり。

淡竹 一名吳竹又大竹とも云ふ今云ふハチク漢名甘竹又甜竹とも云ふ古より仁壽殿の前の北方に植ゑられし竹も亦淡竹の一種なり吳竹と云ふは元吳國より渡來の竹なるべし一名漢竹と云ふ是れ俗にカラタケの名ある所以なり淡竹の一種に皮白竹漢名白竹と云ふものあり是れ俗にハチクと云ふ名の起れる所以なり。

紫竹 ムラサキタケ又クロタケと云ふ眞竹に似て其皮紫色なりシチクと云ふは俗名なり和漢通名にて一名を紫君又は紫若或は觀音種とも云ふ。

布袋竹 一名琉球竹又は虎散竹漢名多般竹元と琉球の産なりと云ふ又人面竹とも云ふ此竹節間圓起突出布袋和尚の面の如し故に名づくといふ。

龜甲竹 一名龜文竹(文或は紋に作る)孟宗竹の變生にて往々孟宗に反ることあり宿生の期節亦全く孟宗と同じく四月中旬より發生す。

四方竹 泉の北見家加茂の福浦にあり。  
篠竹 一名ヤタケメダケ方言ノダケ。

矢島竹 本名双生竹源三位頼政鶴を紫宸殿上に射止めし箭は此の竹にて作りしなりと原產地伊豫國浮穴郡御染池の邊なり。

山王箭竹 傳教大師比叡山に植栽し山外に移植を禁じたるものなりと。  
八幡目黒 目黒竹本名女竹か八幡目黒とも云ふ方言メダカ、フシクロとも云ふ其の筍を名筍として八幡の小兒は生にて抜きて食ふ是は川竹の事か川竹ナヨタケ女竹即ち仁壽殿の御溝近き方に植ゑられし竹にて一名を女竹ともメダケとも云ふ



故に八幡にて女笥メシコの義の轉じてメイジュンと云ひ女竹にして其の皮黒ければ女黒メクとは云ふならんか。

泉目黒イナメグロ 本名山女竹の變種。

陣竹デシチク 矢竹の一種各所の山野にあり漢名箸箭和名スバともスバタケとも云ふ雪國の山に生ずるもの古へ北國に笥の食用に供すべきもの無く唯此の箸箭の笥のみ食用に供することを得たりと。

棕篋チキヤ 漢名詳ならず吉井村に多し熊篋に似たり。

根篋ネガヤ 本名詳ならず熊篋に似たり或は此國の特産ならんと云ふ。

御祖師竹オノジシク 本名生股竹俗稱虎班竹トラフチタケ(虎彫竹とも云ふ)和名抄の斑竹ハシ(一名涙竹)なり

生立の時は篋竹に似枯死すれば斑紋現る内地には所々に見るも此國には市野澤

御松山實相寺と眞野宮の山に在るのみ北海道のシャコタン竹は此類なり。

犬塚篋イヌツカガヤ 本名豊後篋雅名稻の篋、百人一首に載する大貳三位の和歌に「ありま山稻

の篋原風吹けばいでそよ人を忘れやはする」とあるもの之れなり五葉篋、阿龜篋、天神篋、三味篋の別名あり三味篋は塚原山根本寺の由緒に依りての名なるべし。

大明竹タイミンチク 一名クウチク、中興堀彌一郎氏方にあり。

寒山竹カンザンチク 本名川竹清涼殿にありと云ふ此國にては新穂村大字湯上にあり。

鈴竹スズタケ 仙臺愛宕山の竹にして河崎村大字原黒にあり。

金名竹キンメイチク 漢名全竹と稱するものか泉正法寺にあり。

竹材の利用 明治四十四年五月中、日本の竹林家を以て知られたる坪井伊助翁を招聘し此國の竹に就ての調査を囑托せしが其の説明に依れば此國に産する竹の種類は盆栽其の他の賞翫用に屬するものを除き従来野生のものゝみにも二十餘種に達し中にも栽培を奨励すべきは眞竹マタケ、女竹メタケ、淡竹ハチチク、孟宗モウソウ、苦竹ニガタケ、斑竹ハシチクの六種にして眞竹及び女竹は従来竹材として越後地方へ輸出し又輪竹として北海道へ輸出し國內に在



ては筴ザルに製作する等其の利用は一般に認め居るも孟宗竹は未だ利用さるゝこと少きが如きも孟宗竹の幹は農具に用ゐる枝は筴の原料となり筍は罐詰として食料に供すべき故に其の栽培を怠るべからず篠竹シノタケの利用は極めて汎く提燈の骨に供し筴の原料等に用ゐる重要なこと多言を須ゐず此國の如き竹製品を多く需要する北海道と密接の關係を有する土地に於ては將來益々竹の利用を圖ると共に其の販路の擴張を講せざるべからず云々、輪竹に用うる眞竹の如きは從來其の需要地は越後及び北海道の二方面に限られたるが如き觀ありしも前年千葉縣より醬油樽に用ゆる輪竹の注文を受けたることあり現時岐阜愛知静岡等竹製品の産地に在ては一般原料の缺乏を告げ遠く越中能登等より輸入するの狀況なれば此國の如き竹林の富饒なる地に在ては需要地の調査は緊要なりとし深井前郡長は他府縣に出張し竹の需要を調査し各種竹類に對する利用方法を講じたりき。

附

## 維新前佐渡の林政

維新前徳川時代に於ける此國森林制度の概要を左に掲げん。

一、森林の種類及び名稱

(イ)元祿中 古御林百十九箇所、新御林十四箇所、竹御藪二ヶ所、百姓林不詳。

(ロ)寶曆以後 御林二百七十九ヶ所、内二ヶ所竹藪、百姓林四千七十九ヶ所、内箇所不詳竹藪。

御林の激増せし理由は從來百姓林の數町村に跨りたるもの村境爭論の爲め官沒に歸せしものあり又村境の監督を官廳に譲らんとして町村より上地したるもの等ありたるに由るなり。

百姓林の内には個人所有は勿論一町村及び數町村の共有林をも含めり但し官廳



にては其の區別を認めざるも人民側にては共有林を無山(方言)と稱し個人所有と區別せり。

二、管理の方法

(イ) 地方役人(九人)中御林掛二人を置き森林所在の地元には山守を置きて管守せしめ其の町村の名主を管理者と定め責任は其の町村に負はしめたるものゝ如し(元祿以前には一般に山守を置きたるも其の以後に至り山守は大山林にのみ置くこととなり而かも數人に過ぎず大抵其の町村の名主をして管理せしむるに止れり。)

(ロ) 山守には給料を與へしや否や詳ならざれども一刀帶用の特許を與へたり。

(ハ) 風損立枯並に根伐採の際には末木枝木等を山守に給與し又は低廉に拂下ぐるが如き事もありしと。

(ニ) 根伐採の跡へ苗木を培養せしむるが故に是等の手當として御林全部の役員

に對し一ヶ年六石五斗の米を支給せり(山守の給料は此の給米の内より支給されしか)

(ホ) 幕政の當時官林に標示せし高札に左の文字あり。

此御林内へ立入小木えだたり共きりとなるべからず若ぬすみきりいたすに  
おいては吟味之上重科におこなふべきもの也  
但道端にてたいまつたはこ等用の間敷候

月 日

奉 行 所

(へ) 天保十一年の達示の文面左の如し

其村々御林竹木之儀は勿論百姓所持の林と雖猥に不伐取縦令伐採候共時節  
を不違苗木可植付は古來よりの御定にて御林内木薄の場所へは苗木植付手  
入方致候様前々より申附置候處近來ゆるかせに致置候向も有之哉に相聞え  
以の外の事に候以來厚く相心得御林木薄之場所は勿論往還筋並木之儀も減



少致候處へは無油斷苗木植付精々手入致百姓林の儀も同様可取計旨村々可申渡事

三、獎勵施設

(イ)漆樹の栽培を獎勵せしことは記録の徴すべきもの無しと雖も王朝時代の遺習にや江戸幕府の時までは植栽せしめたるものと見ゆるも其の町村は多からず漆役の税目は幕末まで存したり。

(ロ)扁柏樹苗を配布して其の栽培を獎勵したるは明和中に生まれり佐渡に扁柏樹林の繁殖せしは之が爲めなり。

(ハ)砂防林の起原は今の眞野村の内竹田、吉岡の一部及び四日町、八幡村等は往昔は悉く砂濱にて風烈しき時は砂礫を吹き立て往來の人面を向け難く國中地方の田畑は之れが爲め埋まりて作物を害すること甚しかりけり河原田の歌匠中山千鶴が「風をいたみそむきに乗りて行く駒の跡さへ見えぬ雪の高濱」と詠せし

は蓋し其の實況を寫せるならん寛永の末年に至り誰の建議にや砂垣の設計を立て砂垣同心の役人を置き官林より小木又は柴を伐出し關係町村よりは人夫及び繩竹等を出さしめ所々に柴垣を作らしめて其の中に砂を移し其の陰に小松を植ゑる砂垣を喰違になして浦吹く風の防備に構へ三年目毎に人夫を聚めて柴垣を結ひ替へ松をも植ゑ添へさせけるに民皆其の公役を厭ひて謠ひける俚歌に曰く

八幡砂垣三年廻り今年結ひ年  
斯く批難せしに後五十年を経て小松は皆大木となり柴垣は結はねども自然の土堤の如くなりて美田良圃多く開け民の竈も次第に増し此時に至り始めて砂垣を悦びけるとなり當時同所に建てたる制札あり其の文左の如し。

制札

- 一、此砂垣之松木一本成共盜取間敷事
- 一、砂垣植所へ牛馬等を放申間敷事



寛永二十年五月

奉 行 所

(三)造林經營 個人にて官許を得て四日町、八幡等に樹苗を培養し林樾を造りたるものは元文中に山田村太郎右衛門あり明和中に河原田町長兵衛あり其の蹟今歴然として存し人をして其の遺功を感せしむ其の後官廳にて河原田町及び二宮村字窪田の海濱に松苗を栽培せしが皆成木現存し一帯の海濱青松生ひ續き白砂に掩映する所殆んど舞子の觀をなす。

(ホ)治水其の他の保護 佐渡にては幕府直轄の下に禁伐保護の政策を執り官林の伐採は云ふまでもなく百姓林と雖も届出を経ざれば伐採するを得ざる制度なりしが故に毫も濫伐の虞なく殊に木材薪炭共に他國への輸出を嚴禁せり慶長元和の頃は鑛山繁盛を極め相川町の人口十萬を超え家屋の建築坑内支柱等の用途甚だ多かりし爲め酒田秋田等より盛んに木材を輸入せり斯くの如く伐採時を以てし絶えて濫伐の弊なく所謂斧斤以時入山林材木不可勝用也の法制備はりしが

故水源涵養林も魚附林も將た風致林も期せずして具備するに至りしなり。

### 水産業

此國の地勢たる四面海を環らし沿岸線の延長實に五十三里日本海の中樞に位す而かも黒潮の暖流と親潮の寒流と交叉に岸を洗ふを以て棲息する所の魚鱗介藻の種類枚舉に遑あらず殊に夷灣附近に龍宮の寶庫を以て稱せらるゝ天與の水産地あり斯くの如く漁利に富みたるの地に在るも從來の漁業法多く幼稚の域に在ると未だ完全なる漁港の設けなきが爲めに當さに發展すべき資質を備へて而かも十分其の成績を揚る能はざるは甚だ遺憾とする所なり近時郡は縣の指導の下に魚族の蕃殖保護を圖り又郡費を補給して漁船の改良を奨励し之れが進歩發達に盡したる結果逐年顯著なる効果奏し將に斯業發展の機運に向はんとす大正三年は不漁の結果漁獲總額は五十三萬九千二百八十五圓にして之れを前年の六十三萬八千七百〇三圓に比すれば實に九



萬九千四百十八圓の減收なり其の種別左の如し。

種別	數量	價格
鱒	一〇、八五〇	四、三四〇
真鱒	一七八、五一七	二一、四二二
脊鱒	五、〇五〇	一、六六七
鱈	六四、七一〇	三一、〇六八
鯖	一一、六四七	五、五九一
鮪	五一、八七三	二二、三四三
鰯	五二、六八五	三二、六五五
鱈	一一〇、九八〇	六、五二三
鱈	一四〇、八一〇	一五四、八九一
鯛	一八	七六
鯛	二六、八四八	三四、九〇二
鯛	二七〇	一三五
鯛	八、九六九	八、〇七二
鯛	二一、九九六	一八、六九七

種別	數量	價格
鱒	一三、三五三	八、六七九
真鱒	一三、四五一	六、四五六
脊鱒	一、〇五〇	三八九
鱈	四五六	一九一
鯖	六四	四四
鮪	四、八三一	二、九九五
鰯	九四	一一三
鱈	一〇	一二
鱈	一、八六〇	二、七九〇
其他の魚類	一三、二一九	五、五五二
鮑	一〇、八四三	七、五九〇
牡蠣	三、二四五	二、五九六
蛤	二二	一二
蛤	四、五〇〇	二、九二五
其他の介類	二、四二〇	一、二五八
水産業		七三



佐渡産業案内

一番 柔魚	三、四五三	一、一三〇
二番 柔魚	四七一、七七六	一二二、九七〇
蛸	一八、五〇六	六、六六二
鰻	六、〇〇〇	五、四〇〇
海鼠	二、〇二七	四二四
其他の水産動物	一六、五〇一	四、九五〇
石花菜	二、四六五	一、一〇九
藻花	三、六〇〇	四、六八〇
其他の藻類	一六、三八〇	六、五五二

七四

**柔魚漁業** 此國の沿岸約六十里悉く柔魚の漁場ならざるはなし而して漁況の厚薄は年に依り一定せざるも概ね初夏の候に在りては外海府小木方面に來游多く土用後は鷺崎附近の沖合に多漁なり時としては越佐水道一圓に群來することあり俗に此方面の漁場を稱してデンチ柔魚場と云ひ魚群厚くして數十分間に能く數千の柔魚を釣獲することあり冬期に在ては内浦前濱の二方面を除きては西北の風強く波浪常に荒く

して出漁し能はざるを以て全島の漁民は擧て此の内浦、前濱の方面に聚漁するを例とす抑柔魚漁業は全島の共同漁場の如き觀あれども其の定置碇を卸して釣場を定むるは其の地の漁民の特權にして他所より廻船の漁民は引碇のみを使用するの慣行なり。

佐渡に於ける柔魚漁業の創始は今知るに由なし往古は竹木の枝にて釣りしとの口碑存し劍先柔魚を「サイナゴ」と稱するが如き古びたる方言を用うるより推考すれば其の年歴は最も古きものならん享保三年に浦川村と歌見村(二村今加茂村に屬す)との境界和解契約書に「冬鳥賊場漬は従前之通り磯物は兩村入り會たるべき事」とあるに依れば冬柔魚場定置碇を卸すの慣行並に其の權利爭奪の歴史は既に二百餘年前に在りし事なり然らば夏季柔魚浮釣の如きは業に已に往古より一般に行はれたるを推知するに難からず。

柔魚を釣るに古は専ら「トンボ」のみを使用し中古より「ツノ」を發明し近世に至

水産業

七五



り「ソコ」を考案するに至れり「トンボ」は其の構造頗る簡單にして餌を用ゐざる漁具なり口糸に天蠶糸スヂイトを用ひしは寛政の頃に始り白燒の錘を工夫せしは文化の頃なりと云ふ而して鮑螭若くは鈎を用るは近く維新の後に屬し「ツノ」は釣竿四本を兩手にて動かす仕組にして其の技術の巧妙なるは全國に有名なり「ソコ」は天保の頃より用ゐる現今猶使用するもの尠からず。

柔魚の産卵時期は毎年九月より十一月までにして其の産卵場は海底百尋許りの邊に在るが如しと劔先柔魚(方言サ イナゴ)は三四月頃海底五十尋許り菅藻の發生する所に産卵す。

柔魚漁獲の時期は三四二ヶ月を除くの外殆んど周年の漁獲あり毎年五月初旬八十八夜より九十九夜の間開始り體量次第に増し五六七八の四ヶ月を其の盛漁期とし十二月末冬至の頃最も大に達し小寒の候より漸次體量を減するの傾向あり今左に平年漁獲の期節と重量とを併せて表記す。

名稱	期節	平均一尾の重量	乾燥後二十枚一把の重量
花柔魚	五月廿一日より同廿五日迄	八 <small>匁</small>	五〇 <small>匁</small>
五月柔魚	五月廿五日より六月廿四日迄	一三	八〇
中手柔魚	六月廿五日より七月廿四日迄	一六	一一〇
土用柔魚	七月廿五日より八月廿四日迄	二〇	一三〇
秋柔魚	八月廿五日より十月廿四日迄	二六	一五〇
小冬柔魚	十月廿五日より十一月廿四日迄	三〇	一八〇
冬柔魚	十一月廿五日より十一月廿四日迄	四〇	二五〇
寒柔魚	一月五日より二月四日迄	三〇	一八〇
餘寒柔魚	二月五日より三月四日迄	一三	八〇

水産業



鰯 此國水産物中重要製品の第一は鰯にして其生産額毎年平均三十五萬圓内外なり  
 とす佐渡水産組合に於て検査法實施以來其の製品殆んど一定し價格も亦隨て上進し  
 粗製濫造の弊なきが故に顧客をして安心せしむることを得るに至れり抑此國にて柔  
 魚を乾燥して鰯に製造することは延喜式にも漏れ（延喜式に依れば日本海方面の柔  
 魚の貢獻は若狹丹後出雲隱岐の四ヶ國に過ぎず）其の他記録の徴すべきものなけれ  
 ば其の起原を知る能はずと雖も土俗の習慣に柔魚は神の惠與なりとて如何に豊漁の  
 時と雖も肥料に供することなし又平松（今加茂村の一大字） 村民より浦川（これも加茂村の大字）の地頭へ  
 年始の禮として毎年鰯若干を呈進するの嘉例あり又佐渡風土記正保元申年地方小物  
 成として江戸勘定奉行へ上納したる條に水産税七種の内鰯二十四萬五千三百枚此代  
 金一貫七百七十七匁一分とあり爾來明治初年迄二百五十年間増減なく一定の税額を繼  
 續したるを視れば當時鰯産額の如何に饒多なりしかを推知するに足るべし（一年納税の鰯數を今時の價格に換算する時は約三千圓内外に當る）

鰯の製造法は夏は（古來）實乾冬は串乾となし漁業者と製造者との別なく乾燥せしものを  
 四十物商に賣渡し四十物商は之れを整理結束して販賣するを常とす又四十物商は  
 資本を貸與して漁夫を保護援助するの美風ありしも中古より「泊り漁」とて或る一  
 部に豊漁なる時は沿海十里二十里の遠方より乗船の儘出漁し狹隘なる漁戸に共居同  
 業し以て漁獲物を共同に製造すること流行し且梅雨の候には乾燥場混雜し變色品を  
 生ずること多く此等は「實卷」と稱して格安の製品なるを彼の奸商輩は射利の手段と  
 して之れを上品中へ混入し以て華主を欺瞞するの惡弊を來したり此の惡弊を防止せ  
 んが爲め明治十七八年頃改良同盟會を起し又内浦水産會社を設立して模範製造を示  
 し頻りに其の矯正法を講じたるも矯正派と奸商派との反目競争の結果遂に其の目的  
 を達する能はざりき後明治三十三年十二月に至り郡の補助を受け佐渡郡鰯同業組合  
 を設立し検査を勵行したる爲め稍改良の實を見るを得たり明治三十六年十二月組合  
 の組織を擴張して佐渡水産組合と改稱せしも重もに輸出鰯の整一を圖り其の調製を



改良し製品の等級を定め結束及び荷造法を一定して舊來の積弊を矯正したる爲め其の製品の乾燥品質の選定等頗る改良の實蹟を挙げ今や「佐渡鰯」として内外に信用を博し其の價格を高むるの好況を呈するに至れり。  
 今最近五年間の鰯の數量、價格を擧ぐれば左の如し。

年次	數量	價格
明治四十三年	九、三九二	二六八、二三六
同四十四年	六、六八二	一六〇、三六八
大正元年	五、二四〇	一二三、五七二
同二年	一〇、六七八	二二二、四〇九
同三年	七、五七八	一二二、二四八

**定置漁業** 從來此國の漁民は専ら釣漁業延繩漁業のみに従事し網漁業としては殆んど見るべきものなかりしが明治四十二年中新潟市の漁業家片桐寅吉氏加茂村大字和木に來り種々の危険と障害とを排除し夏鮪の大謀網漁業を試みしに漁獲法の處理輸

送法の設備完全せざりしが爲め漁獲物の大部分を腐敗せしめ經濟上に於て稍損失に歸せしも其の漁獲額に於ては殆んど豫期以上の好成績を挙げ此國の定置漁場として有望なることを確知し明治四十三年は夏大謀網を建設せり又新潟の東洋物産株式會社にては汽船にて遠洋鮪釣漁業の試験をなし同年秋期には大阪内外水産株式會社の經營に依り鮪大敷網の試験をなしたるに一期に五百萬圓の收穫あり其の他能登の人濱本平太郎を始め各地の水産家争ひ來り巨額の資金を投じ臺網漁業の經營に従事せしより網漁業は一時に旺盛を極め明治四十年度に於ける臺網の建設は十六ヶ所に及び其の投資金額約十五萬圓以上に達せり是實に佐渡の漁業界に一生面を開きたるものなり然り而して臺網敷設の個所は夷灣沿岸羽吉濱より鷺崎に至るの間及び水津、片野尾と、小木、西三川方面なれども其の本場は夷灣内にして中にも内浦方面を好漁場となす臺網の敷設法は宮城式と富山式の二つあり此國は多く宮城式の大規模のものにして一ヶ所の漁夫四十人餘を要するが故に期節に至れば多數の漁夫襲來し兩



津町の如きは時ならぬ殷賑を極むるの状態なりき。

**遠洋漁業** 本邦の水産家として知られたる松原新之助は曾て佐渡を以て日本海に於ける遠洋漁業の母船と稱せり蓋し此國は北海道樺太とは往昔より交通の便開け露領沿海州は一衣帯水の間在り而かも風向の如何に關せず風下の側に於て優に漁業を營むを得べく尙遠洋漁船の定繫場として漁獲物陸揚地として將た諸般の材料積込地として最も利便なる位地を占有す然るに此國の漁業は前述の如く未だ幼稚の域を脱せず從來柔魚及び鱈を釣漁するに過ぎざるは甚だ遺憾とする所なり去る明治四十年九月小木町古城忠吉氏釧路及び噴火灣内に於て鮪流網を試みたることあり又近年北海道樺太に出漁するもの年一年に増加の狀況なれば近き將來に於ては彼の世界魚族の寶庫と稱せらるる『オーツク』海及び露領沿海州に出漁するもの續出し漸次斯業發展の機運に向ふべし。

**雜漁業** 雜漁業としては沿海の眞蛸及び飯蛸等の漁獲多く年産額約六千圓介類に在ては鶯崎より以南相川を経て米郷に至る沿岸及び西三川小木方面の近海に於ける鮑、蠔、螺等亦世人に知られ海藻に在ては石花菜和布藻花は全島沿岸に産し特に三崎西濱方面に於ける海苔は最も著名なり此他糊料肥料となすべき各種の採藻亦尠しとせず。

**水産繁殖** 輒近水族を濫獲酷捕するの弊甚しく却て不漁の因をなすの憂あるにより繁殖上之れが取締の必要を認め曩に本縣漁業取締規則中鮑殼堅三寸以下のもの鮭鱈兒体長五寸以下のものを採捕又は販賣するを禁じ又鮑其の他五種は一定の期間内採捕又は販賣するを禁止する旨制定しあるにも拘らず之れを無視し禁漁期に於て鮑の稚介を濫獲して竊に販賣するもの多く此國名産の一に數へられつゝある佐渡鮑の跡を絶つに至らんことを憂ひ郡當局者は漁業組合長に傳命して其の取締を勵行せしめつゝあり鮎、鯉、鼈は加茂湖の名産なりしも明治三十六年中湖口に突堤を築造せし以來淡水變じて鹹水となりし爲め悉く絶滅し却て鹹水産の魚介蕃殖増加の現象を呈



し今や湖中の收穫二萬圓を超ゆるに至れり縣水産試験場にては湖中に鮭卵の放養を試みしことあり又郡は前年來繼續して鰻兒を放流し其の繁殖を圖り鴨湖聯合漁業組合亦此の趣旨を賛し鰻兒養殖に従事せり牡蠣の養殖は將來有望にして現在湖中の石砂柴垣等至る所無数の天然牡蠣産殖を極めつゝあり今周圍五里の全湖岸を通じて其の幅五間以内を生息區域となし長さ一間毎に牡蠣五十個附着するものとせば一里約十萬八千個即ち五里の湖岸一ヶ年四十三萬二千個を産殖し得べし蛤蚶も亦加茂湖沿岸に蕃殖し之れが保護方法宜しきを得ば將來好望の養殖地たるべし郡は明治四十五年以來伊勢より種貝を購入放飼し之れが助長發達に努めり蛤は河原田八幡窪田の海岸一帯に産し頗る世人に囑目さるゝ魚族なるも從來之れが保護蕃殖の途を講せざりしが爲め種貝の跡をも絶たんとするに至り郡は明治四十五年中稚介を購入し河原田の沿岸及び加茂湖に移殖し爾來其の保護と蕃殖とに盡し是れ亦將來一の物産たらんとす。

**水産製造業** 水産製造物は從來粗製濫造の弊あるを認め時勢の進運に伴ひ着々之れが改良を圖りつゝあり中にも蒲鋒は近代の製品に係るも前途甚だ有望なり元來蒲鋒は原料の選擇宜しきを得ざれば上品を製造すること能はざるも上品には販路に限りありて多數の需用あるに非ず佐渡蒲鋒は固より最上品と云ふを得ざるも風味の良好なるを以て世人に知られ近年乾鱈の需用漸次減少に傾ける結果饒産なる鱈スケトを以て之れが原料に充つるが故其の價格も低廉なり新潟縣水産試験場は數回技術教師を派遣し兩津相川の二ヶ所に於て蒲鋒改良の傳習を開き舊來の製法を改め世間の嗜好に適するものを製出せるが故に從來の得意場たる長野群馬山梨の諸縣の外新たに岩越線沿道に輸出し販路次第に擴張し兩津町の産額のみにも約四萬圓の多きに達せり又罐詰は其の香味を保存し且永く貯藏に耐ふるが故に水産製造物として最も獎勵すべき價値あり殊に此國の如き孤島の地に在りては風浪の爲め航海杜絶するか或は一時に多くの漁獲ありて價格暴落の時に際し之れを救濟するに最も適當なる方法なり大



正三年に於ける罐詰製造は相川二見の二町村にして其の數量八千八百八十三貫匁價格一萬三千八百八圓に止り魚介其の他原料豊富なる此國としては甚だ不振云はざるべからず茲を以て郡當局は當業者を奨励し其の製法に改良を加へ精品を製出することに努めつゝあり。

**鮮魚の輸送** 東京市場に佐渡鮪の名を聞くは實に近年の事なり明治四十四年中深井前郡長上京の際東京の魚問屋須賀甚氏に謀る所あり氏遂に鮮魚輸送の計畫を立て先づ兩津、新潟の二ヶ所に出張所を置き店員を特派し一面鐵道院と特約を結び米國式冷蔵庫貨車を廻送し輸送販賣の任に當らしめたるに依り鮮魚腐敗の憂なく頗る良好の成績を擧ぐるに至れり猶岩越線全通の今日に在ては汽車の東京着時間頗る短縮されたるに依り佐渡新潟間の輸送は特に鮮魚輸送の目的を以て建造されたる防熱装置の水藏船に托し新潟東京間は特に鐵道院と契約して冷蔵貨車十五輛を運轉し水藏輸送上海陸の聯絡を保つことに當局者は腐心しつゝあれば海陸輸送の新計畫の實現さ

るゝの日も蓋し遠きに非るべし。

最近に於ける此國水産物輸出調査に據るに鰯は一萬六百七十八棚にして此の價格二十一萬二千四百〇九圓藻花は三百九十棚にして一萬百四十七圓干鱈は一萬一千二百八十三棚價格二萬八千三百三十七圓八十二錢四厘なり而して各一棚の目方は鰯は十六貫匁入藻花は二十五貫匁入干鱈は四百尾入なり左に輸出額を表示す。

東	大	神	京	高	深	敦	伏
東京	大阪	神戸	京都	高崎	深谷	敦賀	伏木
品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名	品名
鰯	鰯	鰯	鰯	鰯	鰯	鰯	鰯
單價	單價	單價	單價	單價	單價	單價	單價
一九、八〇〇	二〇、三〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、八〇〇	二〇、〇〇〇	二〇、二〇〇	一九、五〇〇	二〇、〇〇〇
數量	數量	數量	數量	數量	數量	數量	數量
一、八〇八	二、七二一	一、九一七	五八〇	二二九	二〇〇	四五二	一一〇
價額	價額	價額	價額	價額	價額	價額	價額
三五、七八九、四〇〇	五五、二三六、三〇〇	三八、三四〇、〇〇〇	一二、〇六四、〇〇〇	四、五八〇、〇〇〇	四、〇四〇、〇〇〇	八、八一四、〇〇〇	二、二〇〇、〇〇〇



宮	氷	滑	直	高	柏	寺	新	四	大	信	直	大	神	東	
山	見	川	津	田	崎	泊	潟	市	阪	津	江	江	戸	京	
錫	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	
一九、八〇〇	二〇、二〇〇	一九、五〇〇	一九、〇〇〇	一九、八〇〇	一八、七〇〇	二〇、五〇〇	一九、二〇〇	一九、三〇〇	二七、〇〇〇	二五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二、四〇〇	二、五五〇	二、四〇〇	
二五	三八〇	五〇	一、三八九	一三一	四七	四〇	五三九	六〇	一八二	二〇五	三	一、四四四	二、五〇〇	二、九二	
四九五、〇〇〇	七、七六、〇〇〇	九七五、〇〇〇	二六、三九一、〇〇〇	二、五九三、〇〇〇	八七八、九〇〇	八二〇、〇〇〇	一〇、三四八、八〇〇	一、一五九、〇〇〇	四、九一四、〇〇〇	五、一二五、〇〇〇	七五、〇〇〇	三、四六五、〇〇〇	六、三七五、〇〇〇	七〇〇、八〇〇	一、二二四、〇〇〇

越	信	敦	加	甲	上
後	濃	賀	賀	斐	野
同	同	同	同	同	同
二、三四〇	二、六四〇	二、四〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、四〇〇
二、五五五	二、四八三	三七三	三九二	四一四	三二〇
五、九七八、〇〇〇	六、五五五、一二〇	八九五、二〇〇	一、〇五八、四〇〇	一、一七、八〇〇	七六八、〇〇〇

**鮮魚販賣** 此國の群魚販賣に就ては從來魚市場の設けなき爲め之れが賣買に非常の不便を感じたるが時勢の進歩と郡當局の奨励とに依りて明治四十四年三月加茂村平澤に於て始めて魚類の共同販賣所を設置して頗る好果を收めたり其の後兩津町に於て佐渡鮮魚合資會社兩津鮮魚問屋並起したるに依り國內の需用者は素より對岸越後の魚商人等は從來各戸に就き拾ひ買ひの煩勞なく而かも少額の勞費を以て多量の魚類を一時に購入し得るの便宜を得双方多大の利益を受くるに至れり元來此國沿岸の漁民は殆んど半農半漁の状態にて一村獨立して共同販賣所を設くるが如き適當なる地方少きも二見村大字稻鯨は純然たる漁村にして海産物の收獲平均年額二萬五千圓



以上に達し従来は悉く澤根町及び土着商人の手を介して販賣するに依り其の利益の多くを壟斷せられしが同所の漁業組合員は大に覺る所あり今春來郡當局と協議を重ね漁獲物共同販賣所を設置し従來の弊を防止するの準備中にあり同村大字二見にても三家合名會社を中心として二見漁業組合の漁獲物を市場組織として販賣せんと計畫し又小木町の漁業家も數年前より海産物市場設置を主唱しつゝあれば孰れも遠からず其の開設を見るに至らん。

漁船と漁業戸數 此國の沿岸殆んど漁業組合を設けざるなし左に其の漁船數(四、四四六)及び漁業專業戸數を掲ぐ。

佐渡郡各漁業組合船數及戸數表 大正三年十二月調

組合名	船數	戸數
相川	一五三	—
大浦	八二	八六
高瀬	五二	五六
西三川	—	—
椿尾	—	—
井坪	—	—
大浦	—	—
南三川	五八	二七五
尾龜	二五	三八
脇	—	—
大浦	—	—
木流	三二	三六

組合名	船數	戸數
橋	六一	六九
稻	一三三	二〇七
米	四六	五〇
二見	六三	一〇九
澤	一三五	七八一
河	三一	—
八幡	七	—
豐田	七八	一二六
大小倉	七九	一四〇
岩首	二二四	二五一
水津	二二二	二三五
河崎	二四〇	八七七
兩津	三三一	一、二五四
吾湯	三	八五
加茂	一	二二四
羽吉	一三二	四二三
小橋	—	—
大橋	—	—
羽茂	—	—
三瀬	—	—
前濱	—	—
德和	—	—
蓮場	—	—
多田	—	—
松崎	—	—
外府	—	—
入川	—	—
北島	—	—
北立	—	—
後河	—	—
北片	—	—
南片	—	—
小橋	—	—
大橋	—	—
羽茂	—	—
三瀬	—	—
前濱	—	—
德和	—	—
蓮場	—	—
多田	—	—
松崎	—	—
外府	—	—
入川	—	—
北島	—	—
北立	—	—
後河	—	—
北片	—	—
南片	—	—



内浦	三〇三	三〇九	戸	六八	九八
内海	一六〇	一四六	戸	四七	八二
北狄	九二	一〇九	地	八三	一八〇
達者	五三	一〇四	津	九二	一五六
湯上	一七	五	川	九二	未詳
			端		

### 工業

農は立國の本なりとは多年唱道し來れる通語にして此國の如き多數の農業家を有する地方は勢ひ力を農事の改良に専らにすべく農業の基礎已に立ち其の經濟に餘裕を生ずるに至れば工業は自然に勃興するの氣運に際會すべし農工業家にして購買力増進せば商業家繁昌の時代となり所謂三業鼎立して郡勢を發展せしめ延いて國力を充實せしめ郡國の基礎始めて安固なるに至らん然れば今日に於て農業に對立し工業振起の氣運を作るは最も適切なるを以て郡當局は銳意之れが奨勵に努め漸次其の基礎

を造成しつゝ、あり此國の工産物年額約百二十萬圓内外荒物を第一とし(醸造工業を除く)竹細工品之に亞ぐ今や電氣事業の興起せるに依り電力應用の諸工業に資金を放下せんとする企劃新たに實行せられんとすれば遠からず工業上に一大革新を與へ更らに多大の光彩を添ふるに至らん。

**荒物** 此國にては藁細工品竹細工品をアラキ稱す多くは農家の副業に成り一ヶ年の輸出約四十萬圓に達す米穀水産と鼎立し此國重要物産の一たり藁細工は佐渡荒物中の主産品にして其の種類も甚だ多し其の重なるものを草鞋、草履、繩、網場繩、實子繩、筵等とす草鞋の本場は眞野村大字竹田、草履は八幡村網端繩は赤泊村大字徳和松ヶ崎村實子繩は新穂、二宮の二村筵は金澤村大字中興等にして其の外各村とも概ね製造せざるはなく皆北海道に輸出す其の輸出は頗る古くして寶曆の頃には既に巨額に上れりと傳ふ竹細工の内籃、葛籠、蠶籠、藤箕等は眞野村大字四日町、大字新町を本場とも笹は同村大字四日町、小木町、籬、肥後竹は澤根町を本場とす而



して策、籠の創始年代は知るに由なきも寶曆以前に在りて四日町にて創製せられ新町に傳はり更に明治維新の頃小木に移りたるもの、如し蠶籠、肥後竹は近年の創製なれども共に需要頗る多し其の輸出地は越後は少くして北海道を主とす然れば北海道の發展に伴ひ荒物の需要を増し従つて國內の生産多きを加ふるに至れり且越中能登加賀等の帆船此國の各港に寄航し荒物を買入れ孰れも販路を北海道に開きしに依り佐渡荒物の聲價を揚ぐるに至れり明治二十年頃に至り北海道の人口増加し荒物の需要亦激増し到底此國より供給する數量にて需要に應ずること能はず其の機會に乗じ他府縣より佐渡荒物の模造品を製作して陸續之を供給するに至り此國の生産者亦目前の小利に走り「松前行き」と稱し競ふて粗製濫造に流れし爲め草履は越中の産に壓倒され實子繩は秋田の産に奪はれ筵は越前産に侵され網端繩のみ僅に獨占の姿となりしが是亦近年糸繩を使用するもの多き傾向を來し佐渡荒物界に一大恐慌を起せり明治二十二年中荒物輸出商人相謀り之れが改良の議を主唱せしも事竟に成らず明

治三十八年鞍筵商人組合の組織成りて該品の検査を行ふこととなり鞍筵の粗製を改善することを得たるも三十七八年に至りては一般の荒物濫造の極に達し殆んど輸出杜絶の悲境に陥れり明治三十八年中小樽、函館兩商業會議所より本郡役所及び輸出商人に對し荒物改良の急務たることを警告し來るに會ひ之を動機として佐渡荒物同業組合を組織し郡の補助を得て只管其の改善發達を計りし結果遂に昔日の名聲を恢復し年々産額の増加と共に其の販路を擴張し奥羽及び關東地方に供給するに至れり左に最近三ヶ年間の統計を表示し其の趨勢を知るの便に供す。

検査品輸出産額年度別

種目	明治四十四年度		大正元年度		大正二年度	
	個數	價額	個數	價額	個數	價額
草鞋	二七、八六	七四、八三	二六、二五	六八、八六	三三、二五	四九、八〇
實子	六、八七	二〇、五二	六、五四	一六、六〇	九、五四	二六、一六
實子繩	一七、二九	二四、九六	一四、七三	一八、八三	一五、七八	一七、九〇
工業					九五	



筵 蓑 蟹 網 海 雙 雀 草 權 計 引 繩 履 繩 網

端 鼠 梓 棗 類 及 提 燈 骨 竹 籠 竹 類 竹 網

品名	明治四十四年度	大正元年度	大正二年度
筵	五,五七九	七,四九二	五,一一三
蓑	四,〇五八	六,〇八七	三,六二〇
蟹	七,三四七	八,〇八一	九,九〇九
網	二六,四六〇	三九,六九〇	二六,八九四
海	八,四四七	七,六〇二	七,三三〇
雙	六,八八一	六,八八一	六,二〇五
雀	八,八六七	三,八三五	六,九五三
草	三,六五六	六,九四五	四,〇二二
權	一,七九二	九,四九九	一,九八二
計	一七四,九六八	三九,五六〇	一六六,三九九
引			二九四,七八八
繩			九,九三三
履			一,二二八
繩			一四九,五九六
網			二,三七一
端			四八,九六六
鼠			二,三三七
梓			一,八七六
棗			七,七五五
類及提燈骨竹籠			二六,七四五
竹			三,一〇二
籠			三,一〇二
竹			五,六九二
類			四,九六二
竹			三,八三三
網			六〇九
計			二二七,四三六

検査品以外輸出産額及價額年度別

品名	明治四十四年度	大正元年度	大正二年度
荷造繩及樽掛繩	二,五〇〇	一,八七〇	三,四二〇
藤	九五〇	四,二〇〇	一,二二〇
計	六九,一〇〇	九二,八〇〇	八〇,八四〇
計	二四三,〇三八	四〇三,四〇〇	二四七,二九九

荒物個數及價額仕向先年度別

仕向先	明治四十四年度		大正元年度		大正二年度	
	個數	價額	個數	價額	個數	價額
小樽港	一〇八,〇四五	一八,二四〇	九八,三五〇	一三三,一五〇	八八,五〇〇	一〇四,七七〇
函館港	八二,八三五	二二,八〇六	九五,三三〇	一一,六八五	九二,五三〇	一一,五〇〇
壽都港	一九,九五五	四二,三五〇	一五,三三〇	四〇,三三〇	一一,四四九	三,四〇〇
岩内港	一八,三三三	三八,九五〇	三,九二〇	五八,九〇〇	二五,七五〇	三,四〇〇
釧路港	三五五	四九〇	六五〇	二,〇三三	七〇〇	二,一〇〇
越後國	九,八〇八	八,六七四	四,五六九	一三,一七五	六,五八〇	一〇,三九〇
東京市	一,四五〇	一,六三〇	三	七八	五〇	一〇〇
青森縣	一,三三〇	二,四〇五	一一〇	二〇九	九九	一,〇〇〇
長野縣	三五五	二九〇	五九九	二,九五〇	五〇一	一,五〇〇



佐渡産業管内

秋田縣	二六五	二四五	三〇〇	三〇〇
山形縣	二八八	三〇〇	二五〇	二五〇
總計	二四三、〇〇六	四〇二、四二〇	二四七、二五九	三三三、五〇四

九八

味噌 味噌は此國重要物産の一にして永き歴史を有し現今味噌同業組合員中には文  
化年間より繼續經營せるものあり維新前に於ける販賣状態は羽茂及び松ヶ崎より北  
海道へ輸出せしもの二三ありしのみにて他は皆國內の小民に供給するに過ぎざりき  
始めて北海道へ輸出せしは明治十年頃にして其の盛況を呈せしは明治二十年頃に在  
り羽茂、吉岡、新町、澤根等に製造業者陸續輩出し遂に今日の盛大とはなれるなり  
明治四十二年三月佐渡味噌同業組合を組織し事務所を眞野村大字新町に置き郡補助  
を得て益其の發展を計りつゝあり大正二年の輸出總額七十八萬三千七百十貫匁價額  
二十七萬四千五百八圓大正三年の輸出總額七十三萬一千七百三十三貫匁價額二十二  
萬千九百九十九圓六十錢にして北海道に於ける需要は悉く之れを充たすと云ふも可なり  
今左に最近二ヶ年の輸出額を仕向地別に表示せん。

仕向地	輸出額	
	大正三年	大正二年
小樽	一、六三五〇	一、〇一八
函館	一、五六一〇	九四一〇
札幌	一、五六一〇	一六〇〇
壽都	一九三〇	一三六〇
古平	三一〇	五六〇
古市	八〇〇	三七三〇
余市	七〇〇	一二〇
江別	二三〇	八一〇
ハシマ	三〇	八〇
初山		五〇
福利		
山		
山尻		

九九



佐渡産業案内

高島 日高 留毛 美増 美安 俱安 室蘭 樺太 千葉 東京 群馬 石川 長野 越後 合計

高島	日高	留毛	美増	美安	俱安	室蘭	樺太	千葉	東京	群馬	石川	長野	越後	合計
四六〇	三三〇	一〇〇〇	二〇〇	四八〇	二六三四	一〇	三〇	一〇	二〇〇	二〇〇	三〇	三〇	三五〇	七三一、七三二
二五〇	九二八	四〇〇	二〇〇	五〇〇	六三四〇	一〇	二〇〇	一〇	三〇	三〇	三〇	三〇	一一五〇	七八三、七一〇

$M+V=B$

清酒 本業の盛衰は常に郡勸業上重要なものみならず國家財政上より見るも其の消長は直に延びて國家經濟に大關係あり當局の意を保護獎勵に用ゐる之れが爲めなり由來此國は酒造に必要條件たる氣候寒冷なる有利の地に在るも今より二三十年以前迄は粗製の狀態を免る能はざりしも明治三十八年佐渡酒造組合の成立以來稅務當局の獎勵に依り秋季一回品評會を開きて斯業の進歩改良を資け以て當業者の奮勵を促したるに依り稍品質佳良なるものを釀出するに至りしも輓近一般生活程度の向上に伴ひ且交通機關の具備するに従ひ他國より酒類の輸入年々増加し輸入總石數千百三十二石一斗七升此價額五萬八千四百八十八圓五十七錢(大正二年)の多きに及び之れが爲めに酒造家の存立を危ふするに至り廢業の止むなきに及ぶ事實あり當業者は早く此に留意し外自衛の策を講ずると共に内益と酒質の改善を圖り或は兵庫縣其の他の酒造地に徒弟を派して實地の研究を爲さしめ或は釀造試驗所に於て斯業の傳習を受けしむる等大に獎勵を加へたる結果釀造上の技術大に進み從來の佐渡酒とは全



然面目を一變し近年に至り品質風味兩つながら灘酒に比し敢て遜色なきものを見るに至れり大正二年十一月大藏省醸造試験所清酒品評會に於て二等賞を得たるものあり昨年十一月名古屋稅務監督局管内清酒品評會に於て一等賞を得たるもの三點を出せり又昨年十月開催せる佐渡酒造組合第五十三回清酒品評會に於て審査評論の結果出品五十一點中優等品二點一等品二點二等品各三點三等品四點を出し本年三月佐渡酒造家清酒喇味會を開き喇酒法に依り色澤香氣風味の三點に付精査比較し出品三十五點中優等品五點上等品十點を判別せり大正三年度は米價低落の爲め小資本家にも容易に醸造し得べかりしも時局の影響と前年の持越以外に多かりしとに依り意外にも不振の状態を呈し清酒六千五百八十八石四斗六升三合に過ぎざりき今や當業者は銳意輸入酒を防壓し一層其の販路を擴張せんことに奮勵せり

焼酎の醸造は僅少にして大正三年度に於て百八十九石一斗八升三合に過ぎずと雖も其の品質改良せられしは醸造技術の進歩として欣ぶべき現象なり中にも畑野不倉村

青木氏醸造の「大黒」印は醇良の酒粕より精製せしものにして多年北海道各地に輸出して好評を博し到底其の需要に應じ能はざる盛況なりとす

千三百六十

醬油 大正三年末に於ける醬油醸造戸數は千五百五十一戸其の産額千五百五十石價額二萬六千四百五十圓に過ぎずと雖も近來殊に醸造法に改良を加へ又同業組合設立申請を爲す等業務上大に刷新の兆を顯し爲めに逐年進歩の趨勢を呈しつゝあり。

指物 指物工業は八幡村を中心として従來北海道を顧客とし多少の輸出ありしも技術の未熟練と時代の流行に副はざる粗製品の販出により年々他地方の製品に壓倒せられ漸次其の聲價を失墜するに至れるを以て明治四十五年中郡事業として指物講習會を河原田町に開き東京高等工業學校より講師を招聘し當業者を勸奨せしに多數の講習員あり之れが爲め舊套を蟬脱し製作及意匠等大に改良し殊に技工の或る點に於て東京製品の壘を摩せんとするものあり若し夫れ當業者にして懈るなくんば將來の發達期して俟つべし。



種別	大正三年		大正二年		大正元年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
火	四〇〇 <small>圓</small>	五、九〇〇 <small>円</small>	四四〇 <small>圓</small>	五、〇〇二 <small>円</small>	五九七 <small>圓</small>	四、一七〇 <small>円</small>
箆	七〇五	五六四	九二〇	八六五	七四六	六五〇

**織物** 此國に於ける織物は極めて幼稚の域にあり其の産出額は機業戸數工場一箇所  
 其の他は家内工業賃織業にして機械は足踏手織の二種を用る居れり而して絹織の産  
 出地は澤根、赤泊、兩津の三町村にして木綿地は澤根町並に金澤、吉井の二村級布  
 織は吉井、外海府に於て産出する其の産額は左の如し。(大正三年)

種別	數量		價額	
	數量	價額	數量	價額
羽二重類	一三	七五 <small>円</small>	七五	七五
斜子類	二六	一四五	一四五	七
絹類	一	一三〇	一三〇	一一〇
紬節織類	二四	一一〇	一一〇	一一五
平絹類	二九	二四	二四	二九
糸入絹類	五五	五五	五五	五五

交絡類	白木綿類		綿紺木綿類		織物		麻級布		合計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
一七	一六五	三、二七八	一、二四九	一一	四、七三〇	一、〇二八	一六七	一、一九五	六、〇九〇	九六
九六	六七八	一、九六六	一、一九四	一五	三、三二八	七一九	一四〇	八五九	四、八六五	一〇五

前記級布織は~~王~~樹皮の纖維を以て製織し蒸籠の下に敷き釜の臺當て等に用うれば  
 飯粒の附着することなく又汗襪りとして妙なり吉井村(大字長江)を主産地とす裂  
 織は馬琴の「煮襪記」にも見え其の製素樸にして尤島國の風を徴すべし産地は外海府  
 地方にして綿裂織絹裂織の二種あり綿裂織は襪樓(草と稱す)を裂きて緯となし之を糸に



て織り込みたるものにて漁夫舟子の上衣、運搬者の労働服として堅牢にして且耐久力を保ち絹裂織は絹襪襦を經として製織せしものにて専ら赤を雜るを好む維新後までは相當の資格を有する者に非れば着用を許さざりき此の二物は佐渡特有にして共に縣下製織中珍中の珍と云ふべし。

**銅器** 澤根町大字五十里は文政七年本間琢齋(第一世)と云へる鑄造の名手ありしより銅器を以て名あり琢齋嘗て佐渡奉行中川飛騨守の招きに依り大砲十門を鑄了し大に賞賛を得たり後斯道の大家たる佐久間象山に就き大に得る所あり新式野砲數十門を鑄成し大に其の精巧實益を稱せらる其の後家に在りて班紫銅の製作に従事せり元來蠟型鑄銅器は鑄出後毫も鑿工を加へずして鮮明なる畫紋を鑄造し得ると其の着色の古雅なるとに依り好評を博し屢に外國博覽會に出品し多くの賞牌褒状を得たり今の琢齋は第三世にして遺業を繼承して益々家業に盡瘁せり初代琢齋の衣鉢を傳へたる宮田藍堂、土屋宗益、眞藤眞山等皆一家を爲し相川町の三浦研齋亦其の流技を汲

みて名を爲せり猶藍堂の意匠は清雅風趣に富み宗益は錫の製作に於て一頭地を抽き眞山の梵鐘に於ける其の製造の堅牢なる鳴響の深遠なる共に獨特の長所を有せり。今大正元年以降の生産狀況を示せば左の如し。

種 別	大正三年		大正二年		大正元年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
黄銅器	—	三三〇	—	三三〇	—	一一〇
青銅器	—	七、三四〇	—	七、八五〇	—	六、六〇〇

**陶磁器** 相川町に於ける無名異焼は新潟縣の陶器を代表せるものにして此國に渡航せるもの、旅行革靴中には必ず土産物として收納さるゝを常とす其の製造起原は遠く安永年間に在り相川町三丁目黒澤金太郎なる者九州地方へ漫遊し陶器製造の秘傳を得て歸り佐渡鑛山より産出する土石を原料として製造せしも成功せず其の後文政年中同町南澤町伊藤伊平なるもの鑛山坑より發掘せる無名異土を以て製造せしも僅に素焼の軟弱なるものに過ぎず更らに文久年間河岡新平なるもの同町水金澤に於



て開窯し磁器を製するに至りしも遂に振はずして廢業せり彼の斯業中興の祖とも稱すべき初代三浦常山が初めて此事業を經營せしは明治六年に在り常山は相川町一丁目の人世々里正たり常に殖産興業に志深く此無名異の性質殆んど支那産朱紫泥と同一なるを發見し之れに充分の火力を加へ堅硬の陶器を製造するに至らば地方の一特産たるべしと思惟し自ら此業に従事せり元來發明に係る原土が赤色なれば焼成の後には鐵色に變ずるを常とす然るに常山は汝々汲々數年の研鑽工夫を重ね遂に原色を變せずして焼成し而かも堅硬の度を失はしめざるに至れり是實に明治十一年にして常山焼の嚆矢とす長男佐山二世常山と稱せしが歿後三男藍川三世常山と稱し夙とに出藍の稱あり意匠の幽逸なる技能の靈妙なる蓋し我國美術工藝品中の尤物なり又伊藤赤水なるものあり數世製陶の業に従ひ當代に至り殊に研磨精勵を積み技術の巧妙と趣向の雅致とを以て江湖の賞賛を博せり抑無名異焼の特色とする所は堅牢にして緻密と古雅に富み歲月を経るに従つて光澤益々加はるに在り殊に泥色釉藥の特色を遺

憾なく發揮し花鳥風月の文彩を施し變々眞に迫るの概ありて支那古代産に比し殆んど遜色なし唯製品の高價なるが爲め主として風雅趣好の人士に愛用せらる東京京都大阪地方には高尙優美の需要多く日用品は北海道を主要需要地とす近年朱紫泥の本場なる清國へ輸出するに至り年産額五千圓以上とす。

**瓦及煉瓦** 此國の地質は概して粘土多きが故に製瓦の原料に富み品質亦堅牢の評を得居れり且世の進運と共に家屋の屋根は益々瓦を敷用すると他國へ輸出するもの逐年増加するの盛況に達し前途有望の事業なりとす目下一ヶ年産額約三萬圓其中新穂村の産出最も多く一萬五千圓を占む。

左に大正元年以降の統計を示す。

年次	製造戸數	製造高	價額
大正元年	二七	六三五、八三〇	二六、二五六
同二年	三二	八〇〇、五九〇	三二、一一一
同三年	三三	六九九、七〇〇	二七、五一三
工業			一〇九



**漆器** 大正三年末の漆器製造戸数は三十九戸にして同年中の産額二萬二千八十圓なり主産地は新町及び新穂町とし縣下工藝品中屈指の物産にして榛材の純良なると製作の堅牢なると又價格の低廉なるとに由り近年大に需要を増し當業者亦之れが改善に努め塗、蒔繪、意匠等の技能を養成しつゝあり漸次製品の見るべきもの多く従つて販路を他國に伸張せり。

**玉石細工** 西三川村大字小泊、椿尾の二部落は石像石碑摺臼等の特産地にて且古き歴史を有せり俚諺に曰く、

椿尾の石屋さんと馴染で袂移しに地藏もろた

往昔平氏の落人彌平兵衛宗清の末裔此國に來りて創始せりとの口碑あり寶曆六年高田備寬の著せる佐渡國四民風俗に「小泊村椿尾村は耕作の外石臼石佛之類を多く切出し云々」とあり又佐渡志に「小泊椿尾兩村の石工は國用餘り近國に及び殊に石像を造るに巧みにして北陸七州と羽州海濱村々迄彼の像至らざる所なし」とあり之を

見るも百年前に於ける其の盛況をトするに足れり而して天保の頃小泊に名工彌助なる者あり其の製作に係れる佛像は自然に神通を得僧の開眼供養を要せずと傳ふ製造總額五千六百四個此價額三千二十六圓とす（大正元年）又相川町に於ける玉石細工は近代の創業に屬す蓋し我國にて斯業の發達せるは若狹國にして航海上の關係より原料を此國に取り切磋琢磨して裝飾品に製作するを常とす相川羽田町の人渡邊覺左衛門なるもの巨利を他國に龍斷せらるゝを慨し安政四年若狹國遠敷郡遠敷村より斯道の名匠たる岩本庄次郎を聘し其の業を始めしが茲に於て佐渡の玉石細工を世上に知らるゝに至れり後庄次郎は相川町に土着して渡邊姓を冒し子孫其の業に従へり當主は其の第三世にして同じく覺左衛門と稱し遺業を繼げり斯くて明治二十年頃までは瑪瑙を主として僅に紅石紅玉の製作を試るに過ぎざりしが時勢の進歩と共に婦人裝飾品の向上發達し京阪地方より新流行の形式を需要し來るもの陸續たる盛況なり製作の材料として適當なるは瑪瑙、七寶石、赤玉、錦紅石、紫石英等にして其の製品の



主なるものは盃、指環、緒締、婦人用根掛等とす目下製造戸數四戸一ヶ年産額一萬五六千圓に上れり。

## 商業

此國は環海の地にして到る處良港好灣に富み舟楫の便運漕の利ありと雖も商況甚だ遅緩にして商取引敏活を缺けり一は封建時代に於ける農工商の階級の見地より一般社會は商業經營に重きを置かざりしにも因り一は各自の生活程度稍低くして敢て衣食に窮乏を訴ふるもの尠きとに依れり然るに近年汽船の往復頻繁を加ふると共に内地の商人争ひて渡來し今や國內の商權は全く他に奪却せられつゝあり斯くて時運の風潮は武陵桃源に永夜の酣睡を容さず遂に佐渡商業家の蹶起を促し先づ斯業發展の機關として佐渡商業組合を起し商業道德を涵養し各自の意見を交換し専ら商業の進展を謀るに努めり今や物資の輸出入は年々増加の現象を呈し従つて商取引も亦稍

進歩せるを見漸次資本を集中して規模を擴張するの傾向を示し殊に呉服店等の如きは競うて店舗の構造を改良して商品の陳列を整頓し斬新なる廣告術を應用して只管顧客の吸収に努む而かも尙舊慣に泥み概して愛嬌に乏しく往々華客をして慊焉たらしむるものあれども元と是人情の素朴なるに因り敢て他意あるに非ず爾來商業家の覺醒を促し孜孜として之れが改善に盡瘁する所あり想ふに商況敏活に商取引亦圓滿の域に達するも之れを近き將來に期待し得べし。

**港灣** 此國に於ける物質の集散點たる樞要の都邑は夷、新町、澤根、二見、小木、

赤泊の諸港を第一とし多田、水津、浦川、鷺崎の各港亦之れに亞げり。

**夷港** 兩津町大字夷町は夷港と稱呼相通ず明治の條約改正後横濱神戸の諸港と共に七開港場の一に選ばれ其の名は夙に全國に傳はれり蓋し本港は日本海岸唯一の良港にして此國商業界に於ける運命を左右する首腦機關なり故に其の施設の如何は商業の消長に重大の關係を有す是れ湖海聯絡問題の久しく提唱さるゝ所以なりとす此地



は近く新潟港に對し遠く北海關西の連鎖を爲し浦鹽斯徳は一衣帶水を隔つる對岸に在るを以て大船巨船の出入頻繁にして商業從て殷賑なり殊に前は蒼海に臨み後は湖山に接し風光尤も明媚なり。

大正三年中出入船舶數調

種別	船數	噸數
定期汽船	一二三二	二二九、四五八
不定期汽船	八三六	五五〇、三九四
帆	二〇	二、六〇〇
石數帆	四〇〇	五三、〇〇〇 <sub>石</sub>
避難汽船	一五二	
避難帆	一一〇	

新町港 眞野村大字新町は古の雜太郡の内にて昔は農家の散在したるに過ぎずして其の市街を成したるは慶長以來のこと、す是れ新町の名ある所以なり縣道小木、赤泊、國中、相川四線路の集合點に當り眞野灣に臨みたる要地にして海運の利あるを

以て頗る形勝の地とす。

大正三年中出入船舶數調

種別	船數	噸數
定期汽船	四二	四二、〇〇〇
不定期汽船	七七	四五、七〇〇
帆	五〇	二〇、〇〇〇 <sub>石</sub>

澤根港 五十里に連接して一長市街をなし此國各都會と内地諸國との交通運輸に至要の商港たり往時鶴子銀山の盛んなりし頃最繁盛を極めりと現今帆船汽船多く出入し小木を経て越後直江津と定期汽船の往復あり。

大正三年中出入船舶數調

種別	船數	噸數
定期汽船	三六一	四一、〇九四
不定期汽船	一九四	一三五、八〇〇
帆	二六	五、二〇〇
商業		一一五



佐渡産業案内

石数帆船	二二二	三九、九六〇 <sub>石</sub>
避難汽船	一一二	
帆船	二八	

二見港 昔は蓋見と書せり二見の名は二岐岩あるが爲めに伊勢より取りて名づけたるなり港域廣く水底深く大船を連繫するに足り國防上の要地なり。

大正三年中出入船舶數調

種別	船舶數	噸數
商船	一一二	八九、六〇〇
帆船	一一二	一〇、三七〇
石数帆船	二六	四、三三〇 <sub>石</sub>
避難船	五五六	

小木港 慶長十九年公津に定められてより船舶輻湊旅客群集して此國の咽喉と稱せらる左右各灣を成し右を内の澗と云ひ左を外の澗と云ふ帆船の出入及び上下に便利なることは近國無比の良港たり。

大正三年中出入船舶數調

種別	船舶數	噸數
定期汽船	六九九	六八、六〇二
不定期汽船	三六七	二七五、四七三
帆船	一三〇	一六、二五〇
石数帆船	五七〇	四二、七五〇 <sub>石</sub>
漁船帆船	三〇	四五〇 <sub>石</sub>
避難汽船	一五〇	一一二、五〇〇
同帆船	一一〇	一三、七五〇
同石数帆船	二三〇	一七、二五〇 <sub>石</sub>

赤泊港 此國にて最も早く開けたる公津にして灣内水深くして良港なり毎年十月より翌年三月迄越後寺泊へ郵便汽船の定期航海あり越後へ來往するには航路最も近く且其の航海安全にして冬期は至要の港なり。

大正三年中出入船舶數調

商業



佐渡産業案内

種別  
定期汽船  
不定期汽船  
帆船  
帆數石數船  
避難汽船  
同帆船

船數  
四七六  
四六〇  
七〇  
三六〇  
四三三  
七〇

噸數  
一一八  
六二、一二〇  
一一〇、〇〇〇  
三、五〇〇  
四四、〇〇〇石  
四六九、三二五

市場 國內物資を互市する小市場は所在に成立す左に大正三年に於ける市場を示す。

市場所在地  
夷 (蛭子講市一日)  
湊 吉 河 相 同  
井 田 田 羽 下 戸

賣買品名  
臭服太物 荒物 野菜類  
同上 及 牛 馬  
臭服太物 雜貨 野菜類  
同上

一ヶ年間開始日數  
十三日  
十二日  
二日  
二十四日  
十二日  
十二日

### 電氣事業

電氣事業

新 眞 赤  
秘 野 泊  
山 節 塚 東 新 彼 阿 祇 赤 浦 兵  
王 季 原 光 町 岸 佛 園 市 津 十  
市 市 市 院 市 市 市 市 市 市 市 郎  
市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市

同 同 同  
同上 及 牛 馬  
臭服太物 野菜 荒物類  
同上 及 牛 馬  
臭服太物 雜貨 農産物  
同上 及 牛 馬  
同上 及 牛 馬

十二日  
一日  
一日  
一日  
一日  
十五日  
三日  
一日  
一日  
二日  
二日  
五日  
二日



電氣事業の經營は工業の發達に伴へる動力の増加と文明の進歩に應ぜる燈火の増進とに依り事業非常に擴張せり元來斯業の如き獨占的性質を有するものに在ては須らく國家的事業として之を經營し其の競争を防止するに努めざるべからず然り而して此國隨處の山岳を穿鑿する溪水は山の急劇なる斜面を奔下し飛んで泉となり流れて河となる地勢に想到すれば水電事業の適地たるを首肯するに苦まざるべし今や兩津町に本社を有する佐渡水力電氣株式會社と河原田町に本社を有する佐渡電燈株式會社の二ヶ所あり又佐渡鑛山にては水力を應用して諸工場に機械の運轉を爲さしめ小木町には瓦斯力に據る電氣株式會社あり斯業の將來益々多望なり。

**梅津川發電所** 兩津町大字夷を距る一里半梅津川の流水を利用せるものにて佐渡水力電氣株式會社の經營に係る水量一秒時間七立方尺水路の延長四百餘間にして落差八十二尺水車は六十馬力一臺を有し獨逸シーメンシュケルト電氣會社製交流三相式三十五キロワット一臺の發電機を据る夜間六百六十五戸一千八百五十九の燈火

(十燭光に換算すれば一千八百六十六燈)を供給する外晝間の動力を開始し精米製材其の他の事業に應用しつゝあり。

**新保川發電所** 金澤村大字中興より約一里半新保川の上流に在り佐渡電燈株式會社の經營する所なり水量一秒時間十立方尺水路及び開渠の長さ六百五十間にして落差百九十尺鐵管總長三百六十尺百八十馬力橫軸タービン水車一臺を有し發電機は高壓三相交流式百二十五キロヴォルトアンペア一分間一千回轉一個を有し現在夜間使用の電燈取付總數四千三百燈之を十燭光に換算すれば三千四百燈となり又メートル使用數は五十戸にして普通使用數は千七百六十戸なり尙業務を發展し一日平均十時間の晝間動力を開始し工業其の他の事業に資益せんことを期しつゝあり。

**戸地川發電所** 金泉村大字戸地を距る約一里戸地小俣兩川の集合點に在り三菱合資會社の經營に係り水量一秒時間十六立方尺水路の長さ三千三百七十六間にして落差實に九百二十尺全國中第四位に在り理論馬力一千七百水車八百馬力二臺を有し三相



交流式六百キロワット一萬一千三百五十ヴォルト六十サイクル二臺の發電機を据ゑる佐渡鑛山の動力全部を供給するに足れり。

**小木發電所** 小木町に在り小木電氣株式會社の經營する所にして瓦斯力を利用す其の出力七十五キロワットにして發電機は直流分捲式、電壓百八ヴォルト、容量七十アンペヤ直流二線式のものをも有す現在夜間の點燈五百燈之れを十燭光に換算すれば三百六十八燈となり其の使用戸數二百一十一戸に供給しつゝあり。

工業家の電力を應用するは云ふ迄もなく近年農業家が灌漑に動力を使用し副業に電力を利用する等産業の發達を促進するに至り現に此國八幡、長木、泉の各部落に依て設立されし耕地整理組合にては電力應用の揚水車を裝置し排水の効を擧げんと計畫せり斯くの如く動力を使用して一般事業の能率を増進せしめんには當に一局面の進展を來すのみならず延いては此國の開發に顯著なる實績を擧ぐるに至らん。

### 實業團體

**郡町村農會** 郡農會は農會令の改正に依り明治三十九年組織成りたるものにして農事上必要な試験及び調査を爲し又技術員を置き農事の講習、講話、實地指導に當らしめ或は視察員を派して他府縣の實狀を觀察し或は町村農會の有益事業に對して獎勵金を交付す本年度に於ける施設方針は前年度の計畫を踏襲し一層之れが發展に努めんとするものにて(一)農藝委員(二)種苗養成(三)米麥種改良(四)講習會(五)堆肥獎勵(六)米麥增收競作會(七)牛馬耕競犁會(八)生姜及落花生栽培(九)園藝獎勵(十)園藝加工品獎勵(十一)表彰(十二)穀蟲驅除(十三)改良農具獎勵(十四)柿樹改良(十五)綠肥栽培等の事業を經營して専ら農事の改良發達に盡しつゝあり。

町村農會は相川、河原田、赤泊の三ヶ町村を除くの外悉く設置ありて郡農會と氣脈を通じ銳意農事の改良獎勵の任に當り其の施設經營の成績見るべきもの少しとせず



今此等系統的農會に就き絮説するの餘地を存せざるも農事改良上最も有力なる團體なるを特筆せんのみ。

現在の役員左の如し。

會長 深井前郡長  
辭任後缺員

副會長

山内 徳松

評議員 本間彌一郎

本間與十郎

大場 廣吉

吉田 善平

幹事 川上 多吉

野崎 裕治

佐渡郡農友會

明治四十三年六月の設立に係り郡内農事講習修了生を以て組織せる

ものにして農事改良上直接間接に貢献する所少からず現在の會員六百四十七名にして役員左の如し。

會長 深井前郡長  
辭任後缺員

幹事 西田 長治

北條 康一

小田 廣吉

佐渡郡蠶絲同業組合

明治三十六年九月の設立にして組合員協同一致蠶絲業の改良

進歩を圖り從來の惡習を矯正する爲め桑園の改良、蠶具の共同購入、稚蠶共同飼育所の設置等並に桑園品評會の開催、秋蠶の獎勵其の他に就き専ら獎勵指導をなしつつあり現在組合員二百二十名役員左の如し。

組合長 深井前郡長  
辭任後缺員

副組合長

磯部 龍次

評議員 渡邊 賢輔

春日 秋二

田中 亮一

高柳角太郎

囑托書記 菊地新左衛門

川上 多吉

蠶絲會 新穂村蠶絲會は明治四十一年の創設に係り小木町蠶絲會は大正二年の設置たり共に町村の補助を得て専ら蠶絲業の指導啓發を旨とし其の販路の擴張を計りつつあり。

佐渡郡産牛馬組合 明治三十二年四月の創設にして初め産牛組合と稱し産牛のみに重きを置きて馬匹等に顧慮する所なかりしも明治四十三年中組合の振興策として産牛馬組合と改稱し優良なる種牛馬を飼育して畜産の改良を圖るを主眼とし又牧場の



設備家畜市場の開設、講習及講話會の開催其の他有要なる事業を經營し且組合員を扶掖誘導して畜産業の進歩發達を圖りつゝ、あり現在組合員千百五十六名役員左の如し。

組合長

深井前郡長  
辭任後缺員

副組長

高柳角太郎

評議員

本間與十郎

渡邊 源一

余吾篤太郎

齋藤佐太郎

縣産牛組合  
聯合會議員

水谷 松治

幹事

石原五之吉

幹事

川上 多吉

佐渡水産組合

赤泊村羽豆滿平加茂村川上賢吉外五氏の發起に依り輸出錫の整一を圖り其の製法を改良せんが爲め明治三十三年一月佐渡錫同業組合設置の認可を得事務所を相川町に置き組合の事業を開始せしが同三十六年十二月佐渡水産組合と改稱し郡補助を得て主として水産業の改良發達及び水産動物の蕃殖保護其の他共同の

利益を圖ることに努む本年度の豫算は歳入出共五千七百二十八圓九十六錢にして其の新事業は郡計畫の漁場探見其の他に充つる目的を以て造るべき石油發動機船の經營を本組合へ委託せしと水難救濟部を設けて遭難者を救助し又は其の遺族を扶助せんとするの二事なりとす現在組合員二千九百三十一名其の役員左の如し。

組合長

深井 康邦

副組長

川上 賢吉

評議員

岩見平三郎

羽豆 滿平

大野庄太郎

評議員

青野 泰助

佐藤 和平

川上 賢吉

漁業組合

此國に於ける漁業組合は兩津、内海府、内浦、羽吉、加茂歌代、潟端、潟上、吾潟、河崎、水津、岩首、松ヶ崎、多田、菟場、徳和、前濱、三瀬、大石大橋、小木、木流大浦、井坪堂釜、西三川、田切須、豊田、八幡、河原田、澤根、二見、米郷、稻鯨、橋、高瀬、大浦、相川、小川、達者、姫津、北狄、戸地、戸中、南片邊、北片邊、後尾、北川内、北立島、外海府の四十八箇所あり何れも漁業權の享有及び行使を爲すと共に組合員共同の利益を増進することに努めつゝあり。



**佐渡荒物同業組合** 明治三十九年九月の創設にして河原田町に事務所を置き(一)菓  
 細工竹細工品の改良(二)調製結束の一定(三)菓細工竹細工品の検査(四)組合の事業  
 に関する調査又は技藝の傳習(五)共進會及び品評會の開設(六)博覽會共進會及び品  
 評會の出品等の事業を經營し専ら斯業の改良進歩を圖りつゝあり現在組合員百三名  
 にして役員左の如し。

組合長 名畑 清次 副組長 瀬下惣右衛門  
 評議員 金子半五郎 吉田重兵衛 小菅 仁作 青木長三郎

**佐渡味噌同業組合** 重要物産同業組合法に依る團體にして明治四十二年三月の創立  
 に係り事務所を真野村新町に設け(一)醸造品の改良(二)容器の調製結束を一定(三)  
 醸造品及び容器並に結束検査(四)組合の事業に関する調査又は技藝の傳習(五)共進  
 會及び品評會の開設(六)博覽會共進會及び品評會の出品等の事業を營み専ら醸造上  
 の改良進歩、販路の伸張に銳意し組合員を扶掖誘導して之れを實行しつゝあり現在  
 組合員三十七名左の役員を置く。

組合長 高野 宏策 副組長 寺島 榮吉  
 評議員 磯野 進 本間庄太郎 青木長三郎 佐々木利三次  
 支所長 海老名武十郎 須田 茂市 市橋 勸吉 中川惣右衛門  
 高野 宏作  
 寺島 榮吉

**佐渡郡酒造組合** 明治三十八年七月組織せしものにて毎年品評會並に啤酒會を開催  
 し醸造の改良策を講じ販路の擴張を計り商取引を圓滿ならしめ以て濫賣の弊害を矯  
 正しつゝあれば斯業の將來や當に刮目に値すべし現在の組合員三十六名にして役員  
 左の如し。

組合長 中山小四郎  
 評議員 川上 賢吉 近藤吉太郎 寺島善四郎 青木永太郎  
 嵐城 嘉平

**佐渡商業組合** 商業の發達を計り商業上の徳義を重んぜしむるを目的として明治四  
 十四年四月組織せしものにて本部も組合長所在地に置く外國内十二ヶ所に支部を設



け相互の氣脈を通じ組合の利便を講じ専ら斯業の發展を資けつゝあり現在組合員二百八十六名にして其の役員左の如し。

組合長	名畑喜十郎	副組合長	江口孫四郎
評議員	木村佐傳次	金子芳藏	水落甚次郎
	池喜一	佐々木健太郎	宮川辨藏
	山田市左衛門	小池仁左衛門	佐野喜平次
支所長	三井松五郎	林儀太郎	關川權之助
	中川清一郎	中川晴吉	外内幸吉
	本間伊八郎	藤井新太郎	風間與八郎
			關川伊平次
			金子太郎平
			若林太郎助
			江口孫四郎
			本間慶太郎

**産業組合** 農村の振興を圖り産業の發達を期せんが爲め郡當局者は産業組合の設立を奨励し或は講話會を開き或は實地指導を爲し孜孜として之れが勧誘奨励に力めたるを以て其の事業漸く進捗するに至れり今左に大正三年末に於ける種類別組合數を掲げん。

種別	組合數	種別	組合數
----	-----	----	-----

信用	四	購買	二
購買	四	生産購買	二
販賣	四	販賣	二
信用購買	四	信用購買販賣	四

以上の組合中成績著るしきを以て産業組合中央會より表彰されたるものは、

有限 澤根信用組合(澤根町)

にして尙他の模範とするに足る組合を摘記すれば左の如し。

有限 新穂信用組合(新穂村)

有限 眞野信用組合(眞野村)

**青年團體** 地方に於ける青年者は國民元氣の淵源にして其の氣風の如何は國運の消長に重大の關係を有するや明なり然るに從來國內各地に於ける青年者の團體は概ね自然の發達に委し深く留意する所あらざりしが明治四十一年以來郡當局は青年會組織の勸奨に關し訓示を與へ之れが奨励に努めたるを以て設立の數漸次多きを加へ今年會數百三十二、會員五千七十一人に達し(一村一會として各大字に支部を置きた)殊に郡經



營にて蠶業並に林業の奨励發達を期せんが爲め明治四十三年國內各青年會に杉苗桑苗の養成を委託するに決するや當時其の養成數の申込杉苗百二十五萬本桑苗二十萬四千七百三十本に達したれば郡當局者は各青年團體の實力及び地方の狀況を考査し委託養成すべき團體を定め其の樹苗數を分配せしに各地とも培養宜しきを得苗木の育成頗る良好なり又青年團に於て現に實行する事業中最も普及せるは補習教育なる夜學部の設置にして其の他土地の狀況に依り各種の方面に盡力せる項目を舉れば概ね左の如し。

共同勤勞（蠶細工、土工受頁、採薪、炭燒、木材運搬等）植林、道路の修築、橋梁の架設、暗礁の取除、船繋所の建設、氣象信號標の建設、道路案内標の建設、文庫の設置、音樂隊の組織、夜警、開墾、社寺の修繕、町村學校等への寄附、慈善寄附、軍資金の献納、名所舊蹟の保存、忠魂碑及び彰徳碑の建立、模範試作地の設置、螟蟲卵の購入、果樹の養殖及び配布、樹苗養成、馬耕の練習、種苗農具の共同購入、品評會展覽會の開催、炭燒製法繩製造法等の共同改良、義務貯金、會員外貯金取扱、巡回理髮、幻燈及寫真機の購入、講習會の開催、敬老會の開催、軍人遺族家族の勞働幫助、戦死者弔魂祭の執行、魚族海草の保護、救急用具の設備、消火器消防用具の備付、洋燈油壺の改良、言語の改良、新聞縱覽所の設置、

海軍兵推薦志願會員相互の慶弔慰問、酒の法度、寢宿の廢滅、賭博禁止、婚姻儀式寄席等への惡戯禁止、年賀休日祭日等の改正、三大節の奉祝式舉行、盆踊の廢止、賤徳行爲の制裁規定、武術の鍛練、團體視察等。

特に學藝に關しては補習教育の施設宜しきを得文部大臣より表彰せられたる青年團體一、本縣知事より表彰せられたる團體三あり尙實業に關しては夙に地方産業の改良に苦心し着々其の効果を奏しつゝあるもの尠しとせず其の他矯風に關しては一郷の積弊を掃蕩し淳厚の美風を形成せるものあり何れも喜ぶべき現象なりとす。

佐渡郡羽茂村 大崎青年農會

補習教育の施設宜しきを得成績見るべきものあり仍て其賞として金三十拾五圓を交付す

明治四十四年五月二十七日

文部大臣從三位勳二等 小松原英太郎

佐渡郡外海府村

小田茂申會

(各) 同 西三川村

小泊青年同志研究會

右補習教育の施設宜しきを得て成績見るべきものあり依て其賞として金貳拾圓を交付す

實業團體



佐渡産業案内

一三四

明治四十四年五月廿七日

新潟縣知事正三位勳三等伯爵 清 樓 家 教

佐渡郡金澤村 新保同志團

補習教育の施設其宜しきを得成績見るべきものあり依て其賞として金貳拾圓を交付す

大正四年二月十一日

新潟縣知事從四位勳三等 坂 仲 輔

### 實業教育

郡立佐渡農學校 畑野村大字栗野江に在り明治四十一年十月十三日戊申詔書の煥發せらるゝや新穂村有志の組織せる戊申俱樂部は奉答記念事業として乙種農學校の設立を村長に建議し新穂村會之を容れ隣村畑野村と協議を盡し遂に兩村組合立として設立認可を稟請し四十三年四月文部大臣の認可を得て設立し新穂村大字大野報恩寺を借用して假校舍に充て同年五月二日を以て開校し同四十四年四月十五日新築せる

現在校舍に移轉し同四十五年四月一日郡立となれり修業年限は三ヶ年にして男子女子の二部に分ち養蠶別科を設く現在生徒數男子百四十二名女子七十名創立以來の卒業生男子百七名女子四十二名に達す現在職員八名書記校醫各一名而して敷地二千七百四十六坪建物坪數六百五十四坪六合外に實習地四千五百六十四坪あり校長山内徳松氏自ら舎監を兼ね常に寄宿舎の一隅に起臥して實踐躬行學生を率ゐ以て其訓育に盡す生徒は一般質實にして絶えて輕佻の風なく勤勉篤學掬すべきものあるを見る。此他佐渡實科女學校(金澤村立)及び二宮、河原田、羽茂、河崎等の各小學校にては生徒に養蠶の實習を課し兩津小學校にては水産科を加設し罐詰製造の實習を行はしむ。

### 實業機關

農會堂 金澤村大字中興に在り前郡長深井康邦氏の首唱に依り明治四十三年六月建設を竣ゆ敷地の面積約八反歩建物八十餘坪雅致ある日本風の建築にして優に八百人

實業機關

一三五



を收容するに足る此國唯一の公會堂なり而して其の建築費約一萬圓は悉く有志者の寄附に成れり此地は元と中興城址にして國中平原の中央に在るを以て眼界廣濶十萬石の耕地を双眸の裡に收め得る雄大の景致に至ては全國中蓋し其の比少なからん尙天氣豫報並に暴風警報信號標を建設して地方天氣の豫報を爲す。

**郡農事試驗場** 農會堂内に事務所を併置す明治四十四年三月の設立に係り地方農産改良増殖方法を按出すべき唯一の研究機關たり職員は場長一名技手四名書記一名助手二名にして田畑の試験地を有するの外樞要農村に依托試験を行ふ其の他畜舎農舎堆肥舎納屋等あり本場設置以來各種農作物の試験講習講話實地指導等農業界の爲め常に先驅となりて貢獻する所多し。

**輸出米検査** 本縣にては明治四十年輸出米検査規則を發布し輸出米検査所を設置するに當り此國兩津町に検査支所を置き其の検査を経たるものに非れば他國へ輸出することを得ざらしめ銳意米質及び俵裝の改善を圖りし以來頓に産米改良の一生面を

開き佐渡米の名漸く定まるに至り従來得意とせる北海道を始め其の他の地方へも漸次販路を擴張するに至れり而して佐渡米の輸出高は年平均十萬俵四萬石と稱す。

**米券倉庫** 農村の振興を期するには先づ米穀の改良を圖り地主小作者間の衝突を避け金融の圓滑に努め賣買に對する從來の弊害を矯正すると共に其の價格の昂上と販路の擴張とを圖らざるべからず本縣にては此目的を達する一手段として米券倉庫の必要を認め補助金を交附して之れが奨勵をなしたる結果此國に設置したるもの左の三ヶ所あり猶漸次其の設立を見るに至らん。

名 稱	位 置
金澤米券倉庫	金澤村
新穂米券倉庫	新穂村
畑野米券倉庫	畑野村

**郡有模範林** 森林の經營及び造成方法其の他利用の模範を實地に示し併せて郡基本財産を作る目的を以て去る明治三十六年中郡有模範林を計畫し翌三十七年眞野御料



林百六十一丁六反十三歩を拜借し三十七年度より之れが更新に着手し杉、松、檜、赤松を通じ百四十町歩餘の植栽を了し今後四個年間に全部完了の豫定なり。

**生産調査會** 郡設の調査機關にして其の目的は郡長の諮問に應じ佐渡の生産に關する重要な事項を審議するに在り會員は十八名を定員とし外に臨時委員を擧げて特別の事項を審議せしむることあり。

**佐渡測候所** 明治四十四年郡營の建設にして相川町郡役所内に在り本所は氣象觀測上最も樞要なる地點に位し其の觀測は中央氣象臺の天氣豫報及び暴風警報をして適確且迅速ならしむるの力大なり近年此國に於ける警報信號の迅速にして且適確なるは一に本所の貢獻に因るものにして爾來社會各種の方面に利便を與へつゝあり。

**金融機關** 金融機關としては兩津町に佐渡銀行(專務取締役土 屋六右衛門)あり相川町に相川銀行(專務取締役 渡邊七十郎)あり前者の公稱資本金十六萬圓拂込資本金十五萬九千五百五十圓積立金

二萬四千七百一圓諸預金十萬六千三百十八圓貸附金三十萬一千六百三十二圓定期預

金二十二萬四千八百八十八圓利益金配當年八分にして後者の公稱資本金十萬圓拂込資本金十萬圓諸預金十一萬二千六百八圓貸附金十九萬一千九百九圓定期預金六萬七百十六圓利益金配當年八分にして國內樞要の地に支店出張所を設け金融の便頗る多く縣下各郡市他府縣殊に東京大阪北海道と密接の關係を有せり。

中産以下の金融機關として最も有益なるは産業組合にして産業組合法の制定は明治年代に於ける社會政策の法律中重きを措かるゝものなり此國にても一兩年來漸く其の實績の見るべきものあるに至れるは喜ぶべき現象なり今大正三年末に於ける此國の各産業組合實況を概括すれば左の如し。

組合數	二十 <small>(實業團體の部産業組合の項參看)</small>
組合加入者	二千七百二十六人
拂込濟出資	二萬七千五百八十三圓
組合員貯金	六萬三千九百六十三圓



佐渡産業案内

一四〇

積立金 四千五百九十一圓  
 貸付金 八萬五千七百九十三圓  
 預ヶ金 五千四百八十六圓  
 現在金高 二千五百五十八圓

此調査に依れば信用組合及び其の他の産業組合に加入し其の利澤に浴し居るもの未だ此國戸數の一割二分に出でざるは産業組合の發展すべき餘地の大なるを示し又拂込濟出資貯金及び積立金は組合の資本として運轉すべきものにして此金額九萬六千三百三十七圓にして殆ど相川銀行の資本額に相當し内八萬六千七百九十三圓は中産以下の融通に利用せられ居る理なり此國の金融機關として又銀行を利用することを難しとする中産以下の者として容易に貯蓄をなし資金の融通を得せしむる力は既に大なりと云ふべく今後は更に大に發展すべき機運に在るものゝ如し殊に本年は町村是の設定せらるゝことなれば信用組合の如きは必ず町村是中の重要問題たる地歩を占むるに至らんか。

金利は時に依り所に依り高低一ならざるも日歩三錢以上四錢以下を上下す今大正三年度に於ける此國の金利日歩を示せば左の如し。

種別	千圓以上 五千圓未満	五百圓以上 一千圓未満	百圓以上 五百圓未満	百圓 未滿
公債又は有價證券	一、〇〇	一、〇五	一、二〇	一、四〇
商 品	一、〇〇	一、〇五	一、二五	一、四〇
土 地	一、二〇	一、二〇	一、三〇	一、四五
家 屋	一、一五	一、一五	一、三五	一、四五
無 抵 當	一、二〇	一、二〇	一、四〇	一、五〇

尙日歩は無抵當にて七月以降十二月迄五千圓以上一萬圓未満二分五厘一千圓以上五千圓未満二分六厘五百圓以上一千圓未満二分八厘百圓以上五百圓未満三分百圓未満五分三厘なりとす。

佐渡の國たる陸には萬頃の沃野を控へ無盡藏の金鑛を存し海には港灣多くして舟楫漁獲の利あり加ふるに到る處風光明媚にして山水秀靈の氣に富み開國の年所亦久しきを経て尤史蹟に富めり今茲新潟縣山林會第四回總會を河原田町に開設するに當り此國産業状態の梗概を汎く江湖に紹介せんと欲し本書編纂の命に接す乃ち倉惶筆を執りしも身は偏陬に在りて左右に參考簿書を缺き且開會の期既に迫り事甚だ急速を要し遲巧を棄て、拙速を採りたるが爲め杜撰の誹りは素より期する所なり況んや紙數に制限あり産業の全班を網羅する能はざりしを遺憾とするも繕き



佐渡産業案内

て此國産業の大勢を知り併せて斯業視察の資料と爲すを得ば大に満悦する所なり  
脱稿に際し特に附言す。

大正四年地久節

一四二

新穂村長畝の里にて

著編者 識

佐渡産業案内終

附録



附  
録

佐渡産業案内終

佐渡産業案内

て此國産業の大勢を知り併せて斯業視察の資料と爲すを得ば大に満悦する所なり  
脱稿に際し特に附言す。

大正四年地久節

新穂村長畝の里にて

考編者 識



## 佐渡産業案内附録

### 名物と特産

「名物に甘い物なし」とは世間の通語なれども此國の名物は此例に反し何れも甘美を以て江湖の賞賛を博せざるものなし來遊の雅客試みに一指を染められて編者の言の虚ならざることを證せられよ。

**佐渡牛** 此國古來より牛を産す其の詳なることは畜産業の部牛の項に載するを以て之れを略す。

**佐渡竹** 赤泊村を主産地とし松ヶ崎、岩首、水津、河崎加茂の東海岸に於ける諸村は有名なる竹林地なり赤泊村野澤卯市氏所有の竹園より出づる竹の如き其の良好なること全國稀觀の所とす以上は何れも苦竹にして赤泊の如きは年産額一萬二三千圓に及び國內を通じて最近年産額八萬二千八百十九束價額六萬二千百十四圓の巨額に



達し北海道を主として越後、秋田、富山、石川の諸地方へ輸出す。

**赤玉石** 織石英の一種にして岩首村大字赤玉の特産たり築園愛盆家の珍重措かざる所とす其の光澤の燃紅にして石理の緻密滑潤なるものに至りては一塊尙數百圓に上るものあり故に此地方にては土地を賃貸するに借地料の外若し赤玉石を採掘せる場合は其の賣價の何分或は切半を地主に納附すべし云々の文言を添へて契約するを常とす。

**水石** 赤泊村大字三川の經臺山より採掘せるものにて草木を附植すべき盆栽用として優品なり其の水分を含むことの早くして水分中の肥料分を能く附植せる草木に供給すると共に涵積せる水をして常に清澄ならしむるの効あり故に青味を生せず腐敗せず草木を萎枯せしめず殊に其の土質の黒層中より採掘せるもの最も可なり東京京都大阪の臺駝師より時々注文あり其の高價なるものに至つては五十圓に及べるものあり。

**其他の名石化石** 此國に化石の産するもの多く又名石も尠からず左に其の一斑を示す<sup>(産地を略す)</sup>

貝化石、蛇骨石、木葉石、鮎石、木化石、鐘乳石、砥石、菊面石、輕石、切石、石班魚石、黑曜石、柘榴石、舍利石、黒石、葡萄石、淨蓮坊石、溫石、蛇眼石、金牙石、碁石、立方石、白雲石、方解石、重晶石、輝銀鑛、黝銅鑛、矢根石、雷斧石。

**無名異燒** 工業の部陶磁器の項に記す。

**玉石細工** 以前は瑪瑙の細工を以て主要業とせしも現今は其の原料の減せしを以て僅に鑛物標本を製作するに過ぎず其の種類は紅石、紅玉、金鑛、銀鑛、銅鑛、硫化鐵、赤瑪瑙、白瑪瑙、七寶石、赤玉石、黑曜石、綿紅石、紅石英、六方石、方解石、試金石、石膏、紫雲石、浮石、正長石、碧玉水晶、石炭、化石、硫黃、蛋白石等なりとす。<sup>(工業の部玉石細工の項參見)</sup>



**竹細工** 工業の部荒物の項に詳記す。

**藁細工** 同上。

**導火線** 此製造は佐渡鑛山の發達と需用とに起り且進歩せり幾多の變遷を経て明治十七年相川町南澤に村上導火線製造會社を設立し、盛んに其の業を經營し現今年産額一萬五千餘圓の多きに上り相川鑛山は勿論北海道に於ける諸炭山に最も多く輸出す其の製法は火藥を紙又は寒冷紗にて包み之れを細線とし澁柿又はコールターを塗抹して製造せるものなり。

**彌助の石地藏** 工業の部玉石細工の項に載す。

**級織と裂織** 工業の部織物の項に録す。

**五十里の銅器** 工業の部銅器の項に記す。

**釜屋笠** 吉井村大字秋津の内釜屋の部落は菅笠の産地にして年産額四千圓あり釜屋の某なるもの加賀より移住して之れを創めしと傳ふ此國古代は藁編笠若くは藁編み

の物を戴き竹骨の菅笠は紳士或は物見遊山の時に非れば使用せざりしと俚語に「あんちやんだちは伊達だ山へ七尾の笠はなんだ」笠を買ってくれば三蓋買っておくれ、日和小笠し、雨降笠に、羽黒參りの伊達笠に「三度笠でも平鷹匠でも殿に似合はぬ笠はない」是又佐渡名物の一なり。

**徳和の碁盤** 赤泊村大字徳和は榎の産地なり碁盤としては榎に勝る良材なし兩三年前其の材五百年餘の樹齡にして一面の價百五十圓のものを東京某大家に送りしことあり。

**小木の椿實** 小木方面に於ける椿の自生は頗る多く大字小比叡最も名あり最近年産額二百石此價格一千九百圓に上る是椿油の原料に供するものにして重みに東京京都大阪名古屋地方に輸出す而して精製の油は伊豆の大島産に劣ることなしと云へり又其の材の白色にして精緻堅重なるを利用して黒檀、黃楊、櫻、棗等に模擬す其の挽物として電氣用コイル、引出し撮み、筆立、算盤球、折尺、版木、將基駒、梭、木



柿、喫煙用パイプ、洋傘柄、刷毛木地、船舶の滑臺、琵琶撥、京都に於ける漆器丸物木地等を製造し或は其の材の燃焼に對する抵抗力を利用して硝子木型を製造し得べし。

佐渡味噌 工業の部味噌の項に録す。

赤泊の榎の實 赤泊村大字徳和、三川、蕨場は榎の實の主要産地にして最近輸出額五百石此價格一千五百圓に上り越後及び長野大阪等に供給し二三年前より馬關長崎等に輸出す越後片貝の名物菓子たる衣榎の原料は之れより製す其の實は十月末に熟す外皮を去りて焙り食ひ或は飴に和して食し又は油を搾りて食用理髮用燈火用に供す之を榎油といひ我國植物質の油中の最良なるものにして實の容積の二割餘は油を搾取し得べし其の製法は榎實の皮を去り鐵釜に入れて煎り次に蒸釜にて蒸したる後油締器械に掛けて油を取り去るなり。

干栗 松ヶ崎村を中心とし畑野、新穂、眞野、赤泊、加茂の諸村は自生の栗樹多く

此實を拾收し乾燥して製す年産額約四千五百圓に上る殊に糸にて貫き通せるものは風味最も宜しく小兒の間食として妙なり越後越中大阪馬關北海道等に輸出す郡當局者は其の種類の改良を唱へ各村に向て奨励中なり彼の勝栗として盛んに東京田町の市場に輸出するに至らば迎春の準備として大に歓迎せらるゝに至るべし。

眞光寺だらり柿 二宮村大字眞光寺より出るものにして佐渡特産の一たり其の起原は眞光寺と云へる大坊建築の際用材を甲州より買入れの爲め棟梁治郎平と云へるを同地に遣せしに同人其の地に此珍種あるを發見し穂木を大根に挿して携へ歸り同寺中庭の柿臺木に接木したるに其の成長結實の優良なるより村内各戸に増殖するに至り本寺大坊の寺號を柿の名稱とせりと云ふ。明治四年同寺火災に罹りし際其の原株を焼失せしめたるは惜むべし目下製造戸數百三十戸あり果實長大圓形にして之れを干柿に製すれば甘味に富み核なく白粉多く此國産柿中の第一位を占め郡農會に於ても明治四十一年度より國內各戸に之れが接木の奨励を爲しつゝあり其の製法は十一



月頃果實の完熟前に於て枝付の儘採取し蒂際より廻し剥ぎにし剥皮終れば細繩に之れを挿み五個宛を一繩とし十繩を一連として家の軒若くは雨露を凌ぐの設備ある場所に二週間許り吊し置き乾燥後は蕎麥程に二三日間包み寝せ込みしたる後取出し爐上に吊すことゝす之れを輸出するには箱の内面及び上下に杉の鮑屑を敷きて柿を填入し後密閉釘打して搬出す最近年額約三百圓北海道を主なる需要地とす。

**花鮑と櫻鮑と搔鯛** 相川名物の一なり伊藤彌兵衛なる魚商或る年の冬期鮑の多漁せられたるも之れを販出する方法なきに困難し薄切りにして清水に洗滌し之れを乾燥して貯藏し置き夏期に至り賣出せるに基く花鮑も亦同人の發明にして搔鯛も製造せり何れも暑中暫く温湯に浸し三杯酢若くは胡瓜揉みに加ふれば鮑皮の紅色殆んど櫻花の如く竟に淡白清洒なる好下物なるのみならず膳上に於ける配色調理の妙殆んど謂ふべからざるものあり。

**雲丹に海鼠腸** 雲丹は泥製にして其の製法未だ宜しきを得ずと雖も他の産地の如く

他物を混ぜずして正味なるは嘉すべし唯其の舌觸りの辛辣なるは缺點たるべし。殊に未だ熟せずして眞雲丹の臭氣を脱せざるは今一層の改善を要すべき所とす海鼠も亦鹽辛の本領たる自然醱酵によれる風味の未だ全からざるは恨みなり加ふるに腸の切斷に注意を欠き水分の滴下を充分にせざる爲め海鼠の生氣を熟せしめざるの感あり尙其の容器も罐詰瓶詰とせるは全く此品の風味を損するものなるべし二品とも原料は豊富なり之れを精製せんか名高き佐渡名産たる亦難きに非るべし。

**蒲鉾** 兩津町の特産たり彼の豊富なる鮓スケトを利用して製造するものにして最近年産額七萬一千四百貫目價格四萬二千圓に上り一本十二錢より二十五錢三十錢迄にて新潟長岡高田を始め近年は多く東京の魚河岸に輸出し彼の静岡ものと競争するに至れり然れども其の品質に至ては猶未だ及ばざるものあり唯價格の低廉なる總菜料理向としては恰好のものたり。

**鱈の佃煮** 加茂湖に生産する沙魚に似たる小魚より製造するものにして明治三十九



年其の製造地を以て名ある石川縣河北郡内灘の島崎外吉なる者兩津町に來り之れを創む最近年産額五千貫目價格一千二百圓とす越後及び東京地方に輸出す。

**鱈の沖汁** 兩津町の名物なり苟くも佐渡を言ふ者は此の珍味を試みざれば共に談ずるに足らず鱈漁に出づるの漁夫が其の捕獲せる潑瀨たるものを直に寸斷し味噌塊を投じたる鍋中に入れて煮たるものにして船中の珍味之れに過ぎたるものなしと。

**鮎の石焼** 羽茂川は鮎の産地なり水の清澄なると共に鮎の香味亦高し此川に至り偏圓なる石の上に薪木を集めて長く焼き上げ其の上に生鮎を載せ味噌を加味して焙りて食するなり風味一段宜しく他に味ふべからざるの珍なり編者前年志賀重昂氏に従ひ此地に遊び此の珍味を試みしに重昂氏世界五大美味の一なりと評せり鹹魚のみの地方にて此淡水魚の料理に移れるは更に妙なるを覺ゆ。

**栃餅** 元と外海府地方の名物たりしが今は兩津町にも之れを製し販賣するもの出でたり其の製法は栃實を溫湯に數日浸し更に堅炭粉を溶解せる水中に數日浸して能く

其の石灰分を除き而して後蒸し能く軟かなるに至り別に蒸したる餅米を混じて搗けるものにして普通の餅の如く粘氣重からず淡白にして風味あり又乾燥して搔餅と爲せば其の味輕淡にして宜し兩津町にては之れに餡を容れて製するあり茶菓子として妙なり。

**澤根團子** 澤根町の名物にして俚諺に「澤根通れば團子が招く團子招くな錢がない」とあるもの之れなり現今之れを製造するもの一戸のみなれど以前鶴子鑛山の盛んなりし頃或は大和船の出入港内に頻繁なりし時代には葭簀張に入りて腰打掛け團子の串を横喰はへに番茶啜りつゝ二見灣の風光に憧るゝもの多かりしとなん往時偲ぶに堪へたり。



佐渡産業案内

佐渡産業案内附録 終

一五四

著名實業家案内



資本金 拾六萬圓  
積立金 四萬圓

佐渡郡兩津町大字夷



株式會社

佐渡銀行

電話 夷三番

支店所在地

新穂畑野、金澤  
河原田、小木



越佐汽船聯絡

夷、新潟間 午前十時卅分 午後四時 夷發  
 新造鋼鐵船第一佐渡丸(百九十噸 九二二)  
 澤根直江津間(夏季) 午後六時澤根發 午後九時直江津發 小木寄港  
 赤泊 寺泊間(冬季) 午前八時 赤泊發 同十一時三十分寺泊發  
 新造鋼鐵船第二佐渡丸(二百廿四噸 三二一)  
 右二船共最新式客室設備完全  
 豫備船 第三佐渡丸 本郡沿岸各地出入貨客の輸送に便す

佐渡國夷港

佐渡商船株式會社

電話(シヨ)又ハ(サ)  
 電話 夷 五 番

日本生命保險株式會社代理店  
 日本海上運送保險株式會社代理店

佐渡夷港

吳服太物商 土屋六右衛門

電話 夷 三〇番



夷 港  
御 旅 館

野 本 中 椎 平

村 間 村

電 話 一 一 四 番	電 話 一 八 番	電 話 二 五 番	電 話 四 番	電 話 八 番
旅 館	屋 館	旅 館	旅 館	旅 館

五

佐渡兩津町大字夷

佐渡水力電氣株式會社

電話略「サ」又  
電話夷四五番

四



大藏省醸造試験所清酒品評會二等賞牌受領  
佐渡物産共進會壹等賞受領  
佐渡酒造品評會優等賞七年間連續受領  
名古屋清酒品評會壹等賞受領

清酒 和木川 佐渡國和木  
扇山 川上賢吉  
振替口座東京九三二一〇番

名古屋稅務監督局管内第二回酒類品評會一等賞受領

新穗村正明寺

銘酒 松乃井 釀造元 松乃井酒造合資會社

電話新穗二一〇番  
振替東京壹〇四參八番

兩津町字夷町

醇芳 日の出燒酎 支店 角屋 傳兵衛

電話夷一二四番  
電略(力)又は(カ下)

本郡酒類品評會創業以來優等賞連年受領



米穀肥料  
荒物商  
雜貨商

新穗町

△ 山田市左衛門

電話新穗一〇番  
電略(ヤマ)又ハ(ヤ)

萬荒物商  
雜貨商

共保生命保險會社代理店  
東京株式會社起業銀行代理店

新穗町

丌 本間伊八郎

振替口座  
東京一九八二三番

吳服太物  
唐物物  
和洋小間物  
書籍

大同生命保險株式會社代理店

新穗中町

井 荒井吳服店

店主 荒井忠平

電話新穗八番  
電略(アキ)又ハ(ア)



建築土木受負業

木材製造販賣業

新穂町

Ⓚ 高野幸太郎

電話二番  
電略(マルキ)又ハ(キ)

種油、鬢附、梳油、香油製造  
古着、萬荒物商

新穂上町

△ 山田半治郎

振替口座東京一九九二二番  
電話(ヤマタ)又ハ(ヤ)

和洋御料理

新穂町

(い ろ は 順)

六六川花一

歡亭  
電話一六番

丸亭  
電話六番

上樓  
電話一五番

月樓  
電話四番

三樓  
電話一三番



吳服太物

佐渡畑野

刃本間吳服店

電話畑野一九番

三

吳服太物

佐渡畑野

渡邊金左衛門

電話畑野六番

三



名古屋稅務監督局管内第二回品評會一等賞受領

佐渡物産共進會一等賞

佐渡郡酒造組合第五十四回品評會優等賞受領

其他數種あり

寛延二年創業

### 銘瀧川

防腐劑を使用せざるは本酒の特長衛生上の無害なる大方の齊しく稱せらるゝ所御安心に御愛用被下度奉懇望候

佐渡郡畑野村大字小倉

醸造元



菊池新左衛門

山本屋(奉行所御下賜)

電話畑野四番

### 清松風醸造元

佐渡郡畑野村大字小倉

青木永太郎

電話畑野一二番  
振替口座東京二一四四五番

### 燒酎大黒印蒸溜元

同郡同村大字畑野

青木支店

電話畑野二〇番  
電信略號(アエ)